

令和3年度 日進市一般廃棄物処理基本計画策定委員名簿

	区分	所属	氏名	備考
1	学識経験を有する者	名古屋大学 大学院 工学研究科	小林 敬幸	運営部会長
2	学識経験を有する者	中部大学 中部高等学術研究所	原 理史	運営部会 副部会長
3	事業者	株式会社中西	井上 真	運営部会委員
4	事業者	日進衛生株式会社	相木 景介	
5	事業者	中央可鍛工業株式会社	松原 和均	運営部会委員
6	事業者	興亜商事株式会社	奥村 雄介	
7	公募の市民	市民公募	山内 昭子	運営部会委員
8	公募の市民	市民公募	山本 裕子	
9	区長会の代表者	岩藤区長	小出 哲次郎	
10	区長会の代表者	北新区長	稲吉 和光	
11	関係行政機関の職員	尾三衛生組合	水野 寿人	運営部会委員

修正一覧（アンケート調査結果報告書）

通番	該当ページ（5月13日修正版 結果報告書のページ）	設問番号等	修正内容
1	P.1	5 回収状況	平成28年度調査結果を追加。
2	P.15	問5	年齢別のクロス集計結果を追加。
3	P.20	問8	平成28年度調査結果を追加。
4	P.27	問14	年齢別のクロス集計結果を追加。
5	全体		今回アンケート結果と平成28年度結果のグラフの模様を揃えた。

令和3年5月13日修正版

日進市
ごみ・生活排水に関するアンケート調査
調査結果報告書

令和3年3月

日 進 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
7	標本誤差について	2
II	調査結果	3
1	回答者属性	3
2	ごみ減量やリサイクルの取り組みについて	9
3	市のリサイクル事業について	24
4	市のごみ収集の方法について	27
5	生活排水への取り組みについて	36

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、令和3年度に策定する「日進市一般廃棄物処理基本計画」の見直しに合わせて、市民のごみ処理についての考えを把握し、ごみの減量化・資源化の方策に繋げていくために行ったものです。

2 調査対象

令和3年1月4日現在の市民の方から無作為抽出した3,000世帯

3 調査期間

令和3年2月1日（月）から令和3年2月19日（金）まで

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

	配 布 数	有効回答数	有効回答率
令和2年度調査	3,000 通	1,669 通	55.6%
平成28年度調査	3,000 通	1,419 通	47.3%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

7 標本誤差について

今回のように全体(母集団)から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査に比べて調査結果に差が生じることがあります。抽出による結果の誤差は、以下の計算式によって算出されます。(信頼度 95%)

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団数、 n = 回答者数、 P = 回答比率 ($0 \leq P \leq 1$)

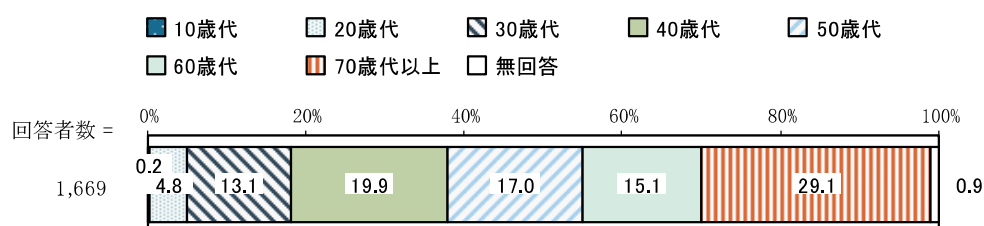
※信頼度を 95% に設定したときの定数は、1.96 となります。

Ⅱ 調査結果

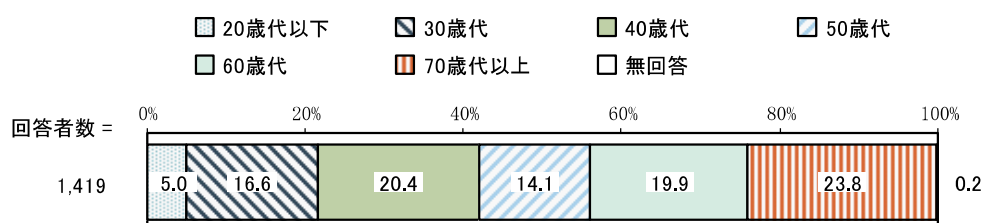
1 回答者属性

問 1－① あなたの年齢についてお答えください。(○は1つだけ)

「70 歳代以上」の割合が 29.1%と最も高く、次いで「40 歳代」の割合が 19.9%、「50 歳代」の割合が 17.0%となっています。

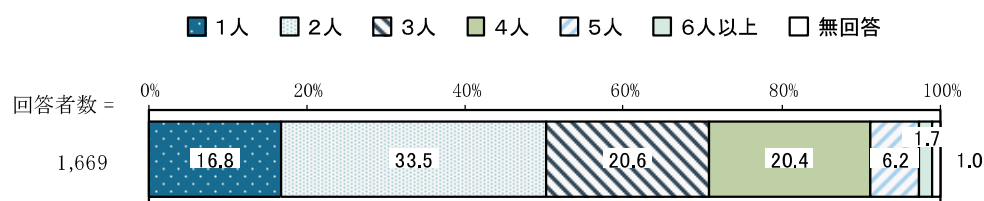


【平成 28 年度調査】

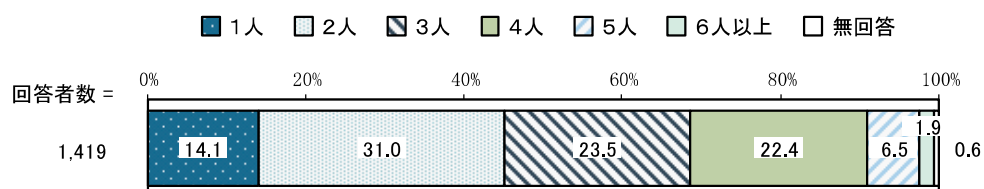


問 1－② あなたの世帯構成をお答えください。(○は1つだけ)

「2 人」の割合が 33.5%と最も高く、次いで「3 人」の割合が 20.6%、「4 人」の割合が 20.4%となっています。

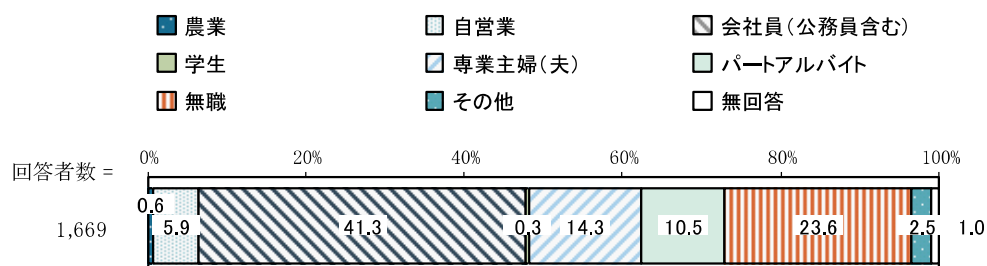


【平成 28 年度調査】

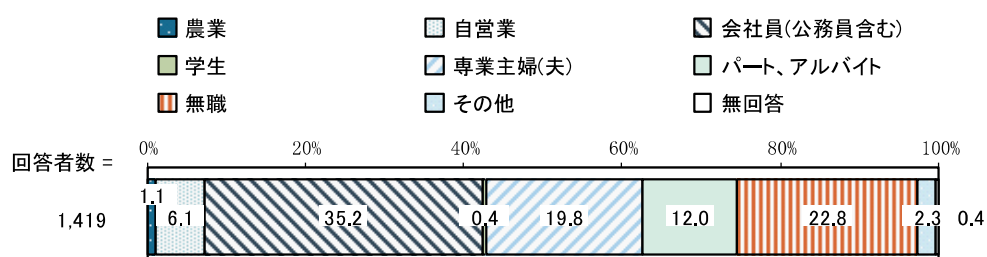


問 1－③ あなたの職業についてお答えください。(○は1つだけ)

「会社員（公務員含む）」の割合が 41.3%と最も高く、次いで「無職」の割合が 23.6%、「専業主婦（夫）」の割合が 14.3%となっています。

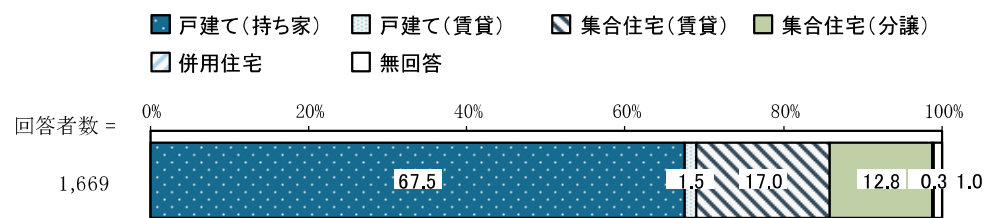


【平成 28 年度調査】

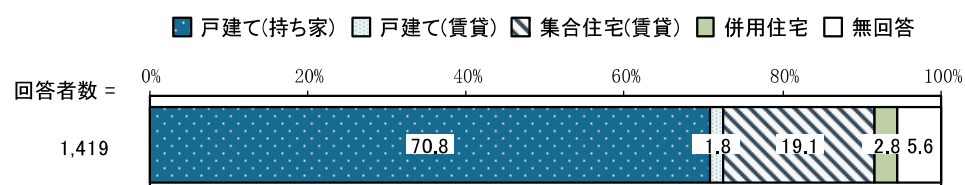


問 1－④ あなたのお住まいは、次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

「戸建て（持ち家）」の割合が 67.5%と最も高く、次いで「集合住宅（賃貸）」の割合が 17.0%、「集合住宅（分譲）」の割合が 12.8%となっています。

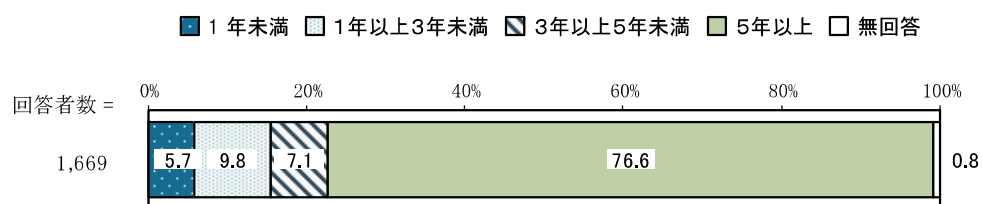


【平成 28 年度調査】

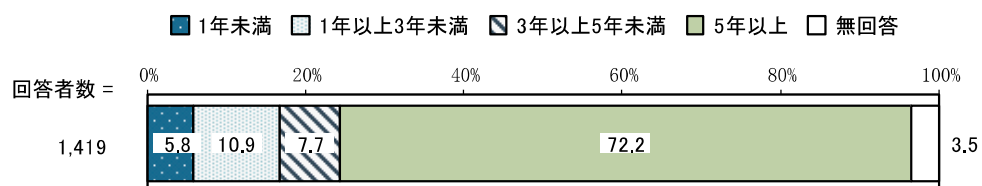


問 1－⑤ 現在のところに何年ぐらいお住まいですか。(〇は1つだけ)

「5年以上」の割合が76.6%と最も高くなっています。



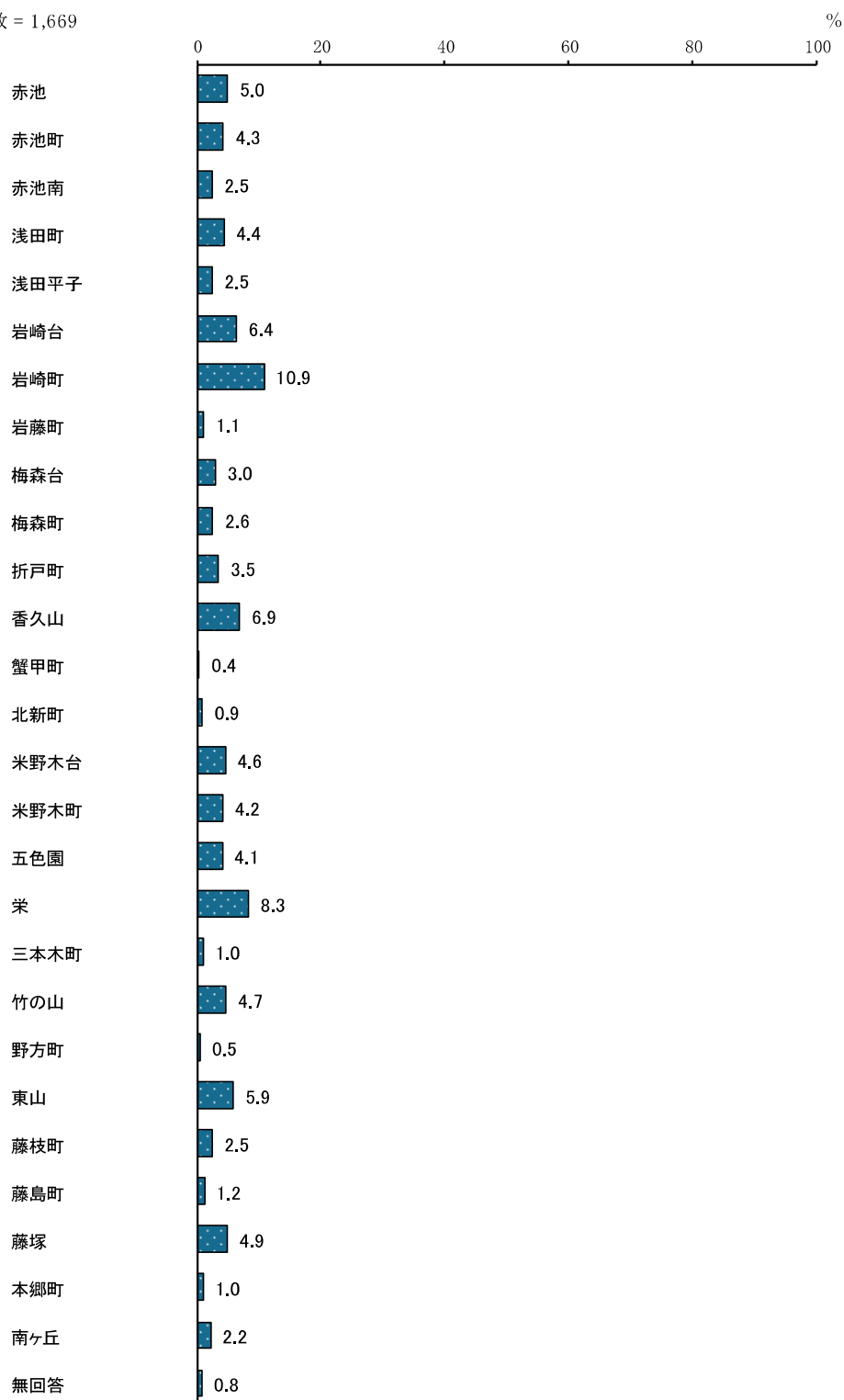
【平成 28 年度調査】



問 1－⑥ あなたがお住まいの地区は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

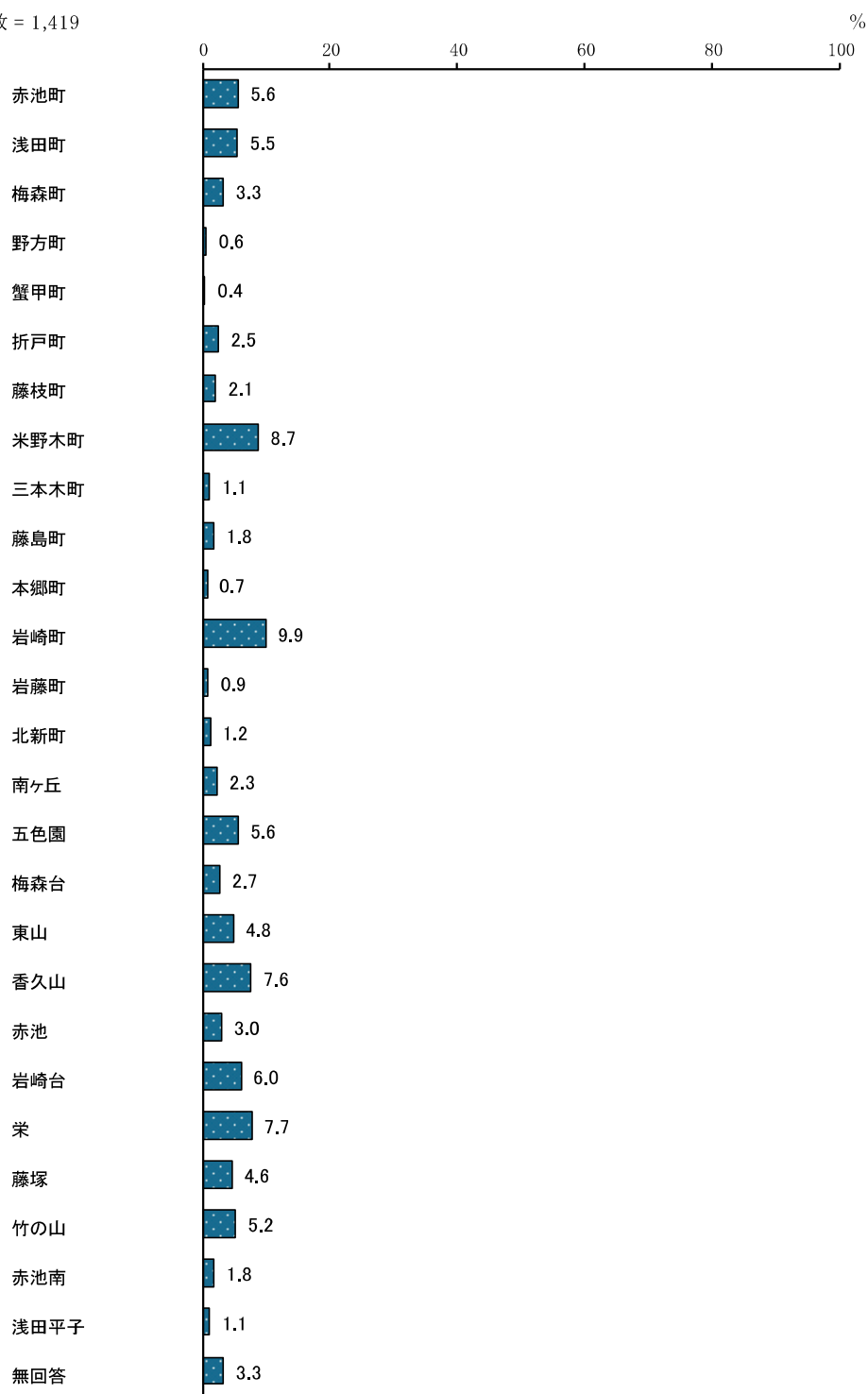
「岩崎町」の割合が 10.9%と最も高くなっています。

回答者数 = 1,669



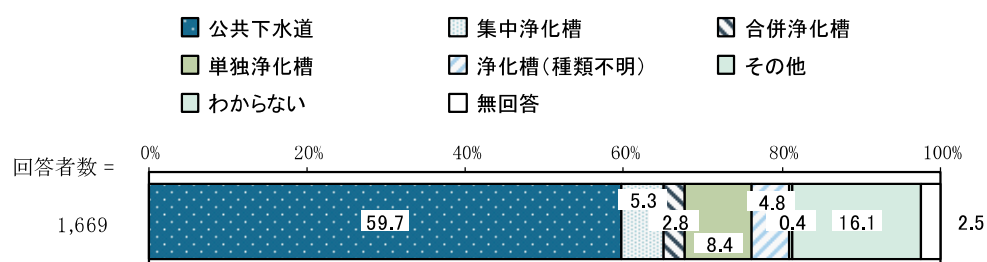
【平成 28 年度調査】

回答者数 = 1,419

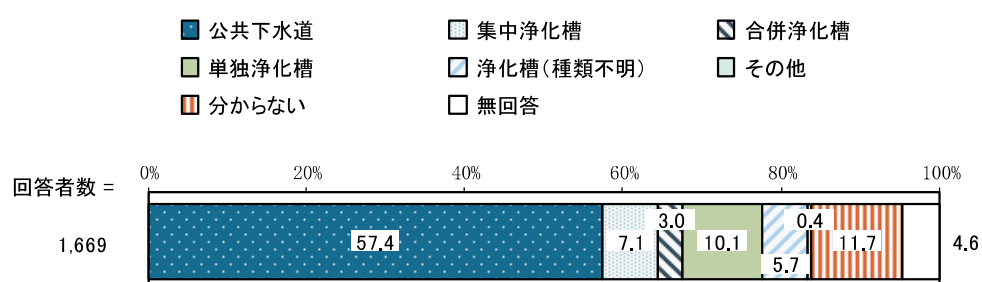


問 1－⑦ ご自宅の排水形態は下記のどれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

「公共下水道」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「わからない」の割合が 16.1%となっています。



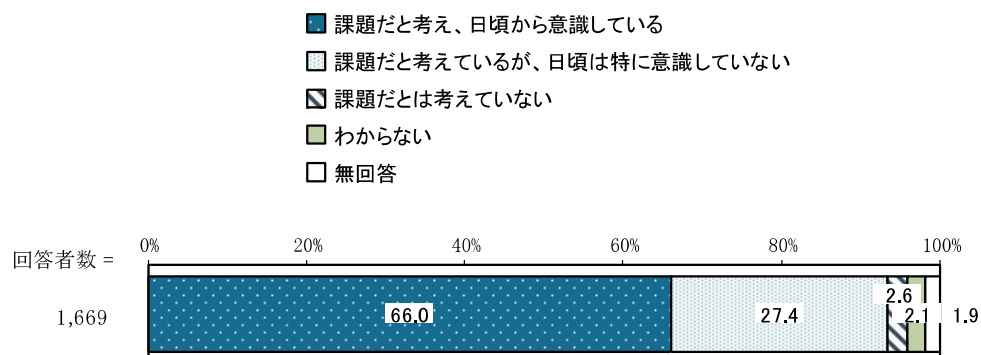
【平成 28 年度調査】



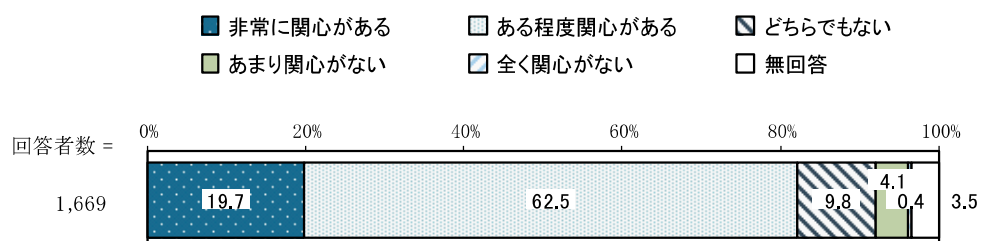
2 ごみ減量やリサイクルの取り組みについて

問2 日頃から、ごみ処理の問題に対してどのようにお考えですか。(○は1つだけ)

「課題だと考え、日頃から意識している」の割合が66.0%と最も高く、次いで「課題だと考えているが、日頃は特に意識していない」の割合が27.4%となっています。

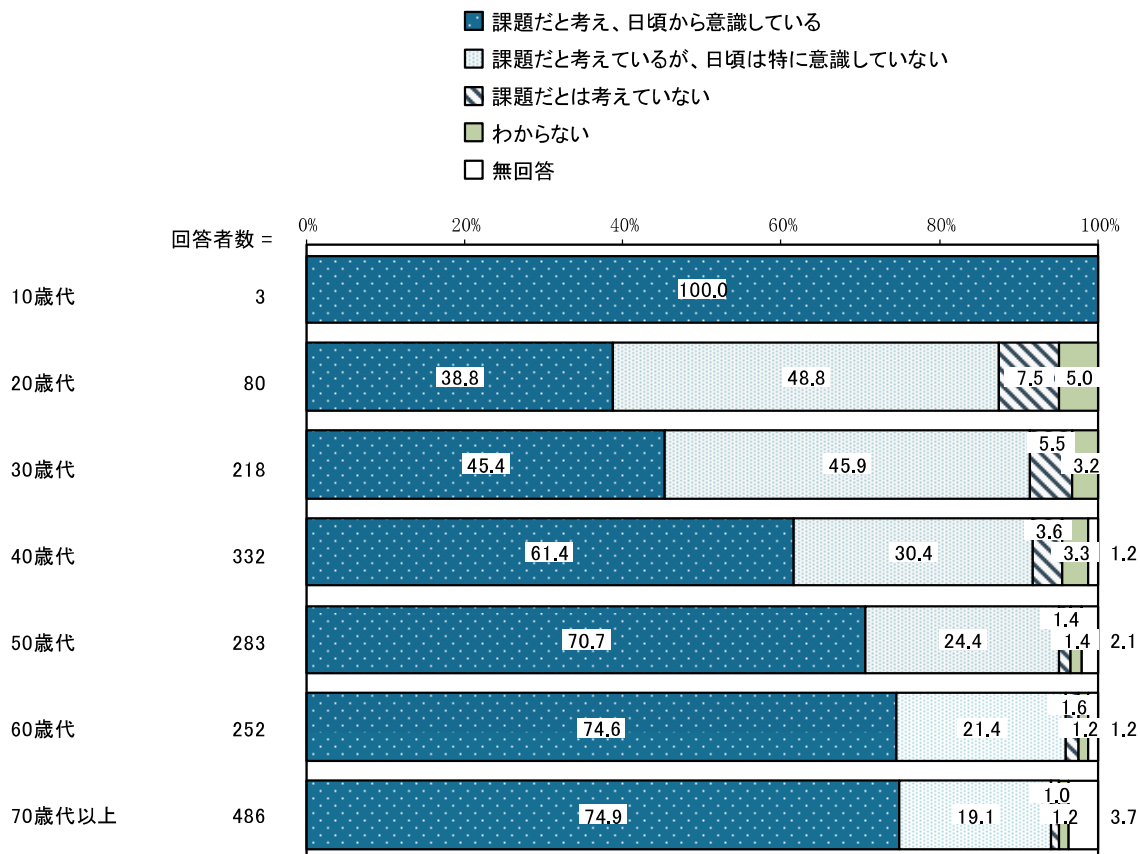


【平成28年度調査】ごみ減量やリサイクルへの関心



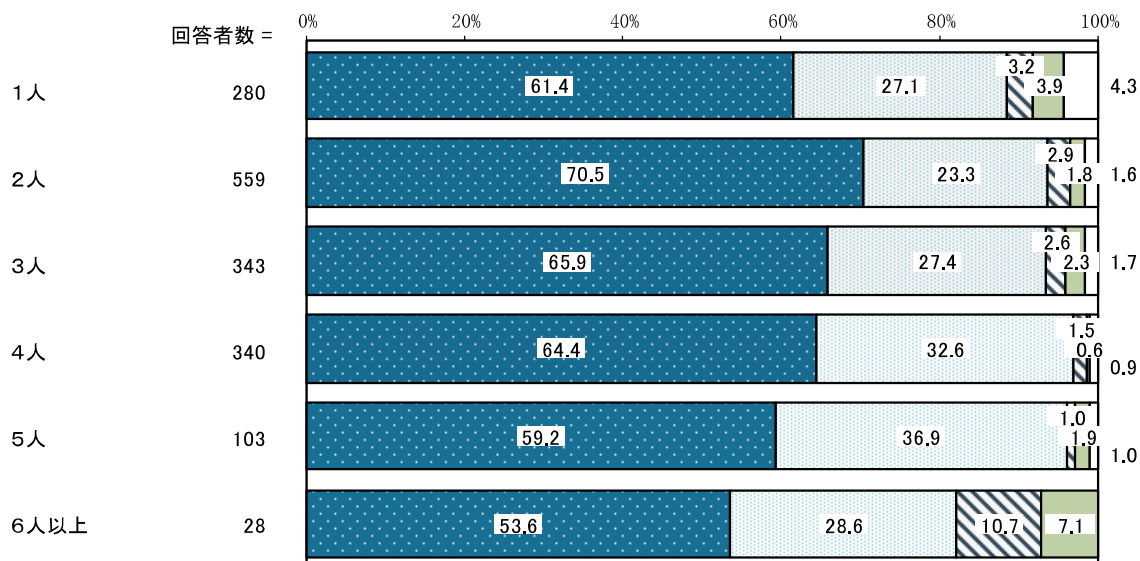
【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「課題だと考え、日頃から意識している」の割合が高くなる傾向がみられます。一方、年齢が低くなるほど「課題だと考えているが、日頃は特に意識していない」の割合が高くなる傾向がみられます。



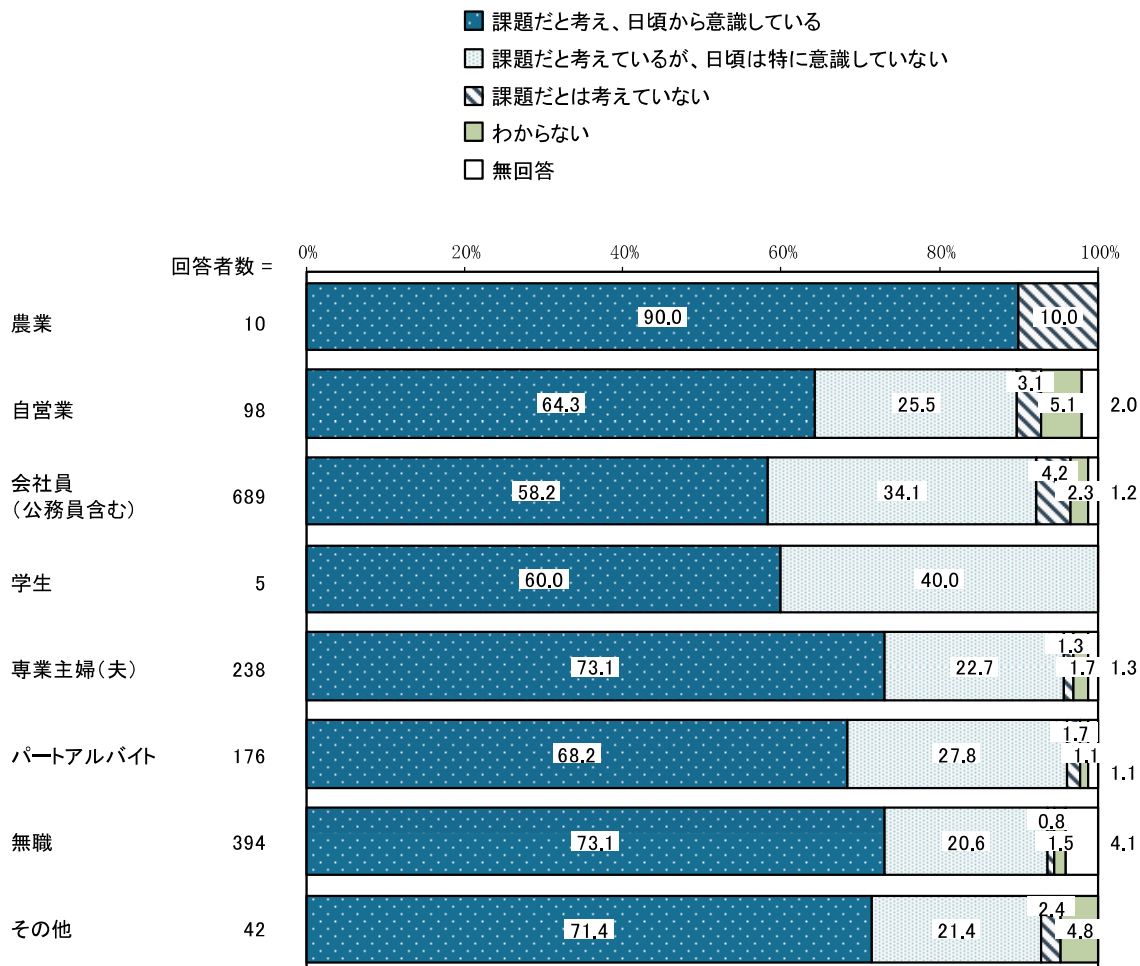
【世帯構成別】

世帯構成別でみると、世帯人数が少なくなるほど「課題だと考え、日頃から意識している」の割合が高くなる傾向がみられます。一方、世帯人数が多くなるにつれて「課題だと考えているが、日頃は特に意識していない」の割合が高くなる傾向がみられます。



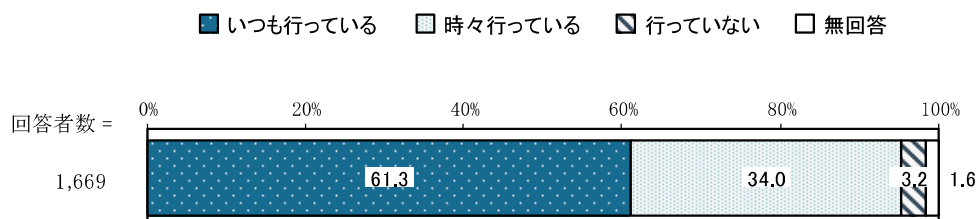
【職業別】

職業別でみると、他に比べ、農業で「課題だと考え、日頃から意識している」の割合が、会社員（公務員含む）で「課題だと考えているが、日頃は特に意識していない」の割合が高くなっています。

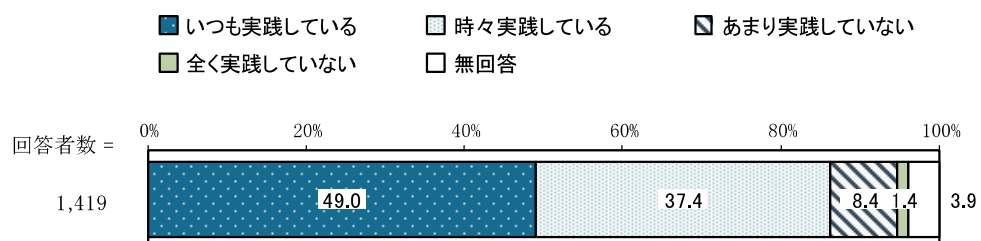


問3 あなたはごみ減量やりサイクルを行っていますか。(○は1つだけ)

「いつも行っている」の割合が61.3%と最も高く、次いで「時々行っている」の割合が34.0%となっています。

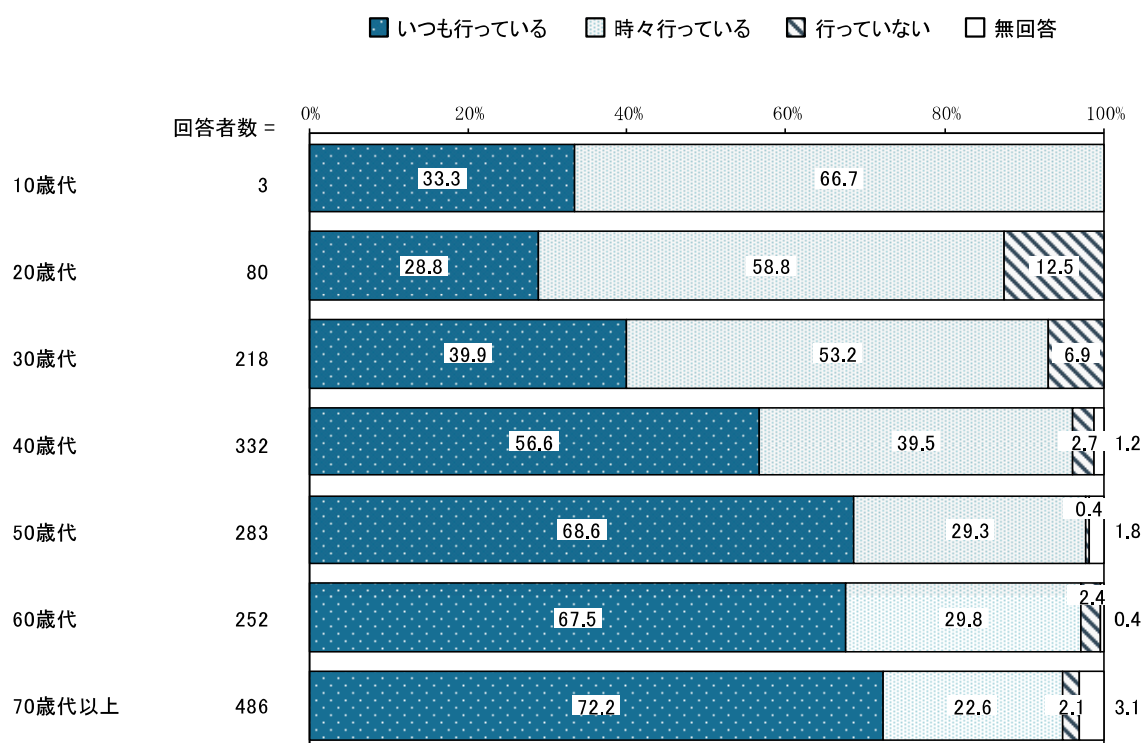


【平成 28 年度調査】ごみ減量やリサイクルの取組



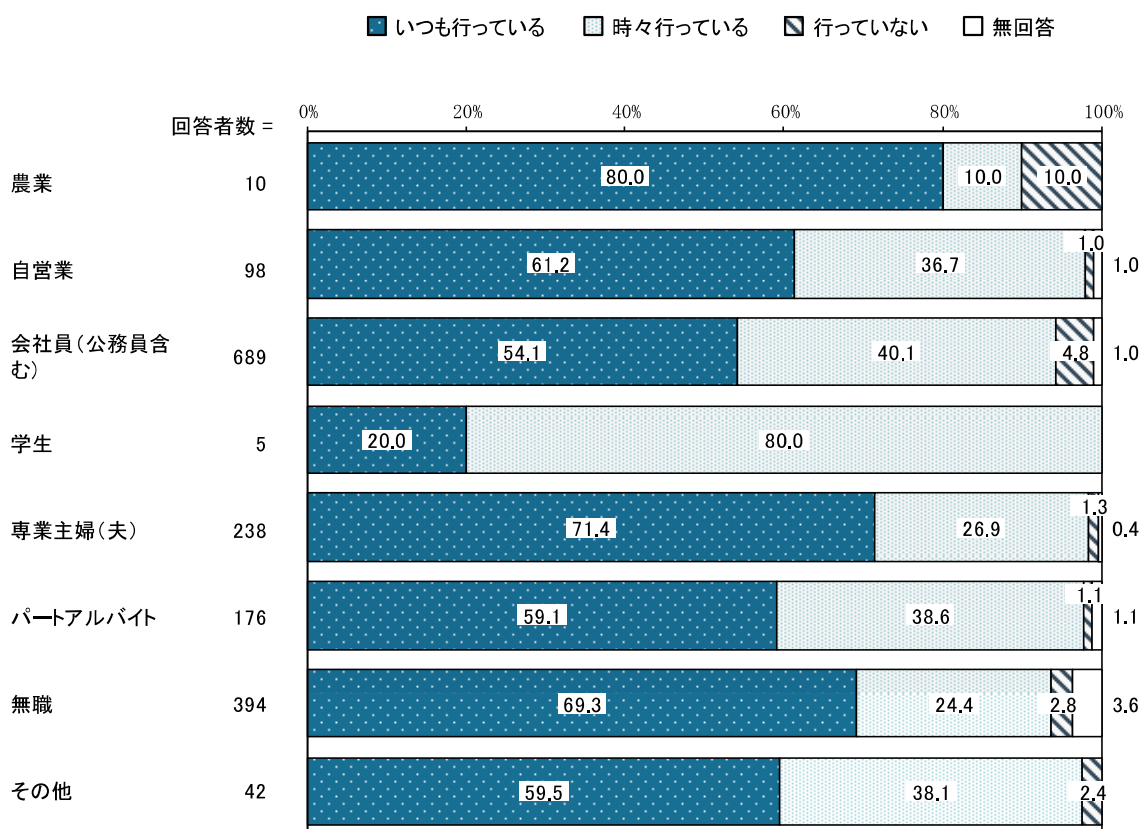
【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「いつも行っている」の割合が高くなる傾向がみられます。一方、年齢が低くなるほど「時々行っている」「行っていない」の割合が高くなる傾向がみられます。



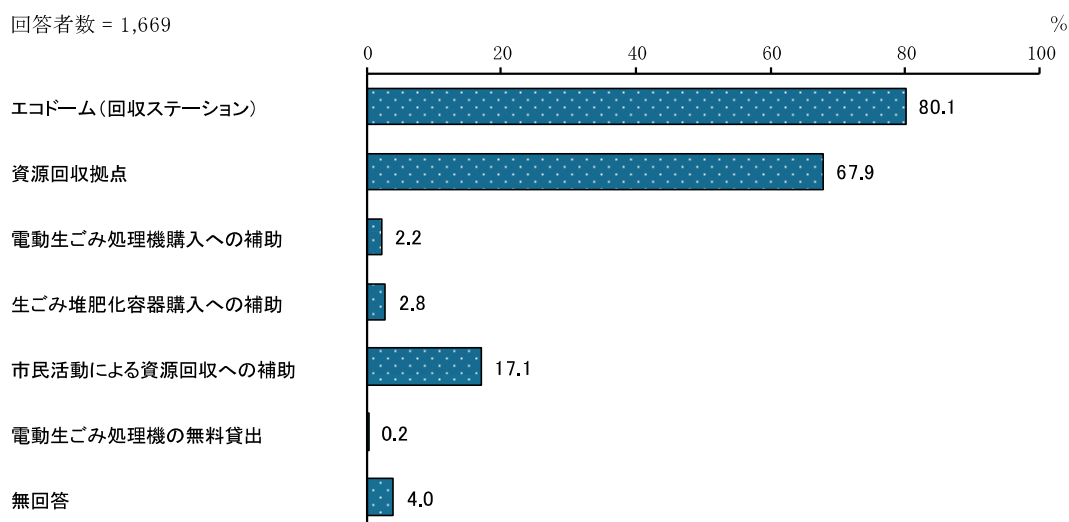
【職業別】

職業別でみると、他に比べ、農業で「いつも行っている」の割合が、会社員（公務員含む）で「時々行っている」の割合が高くなっています。

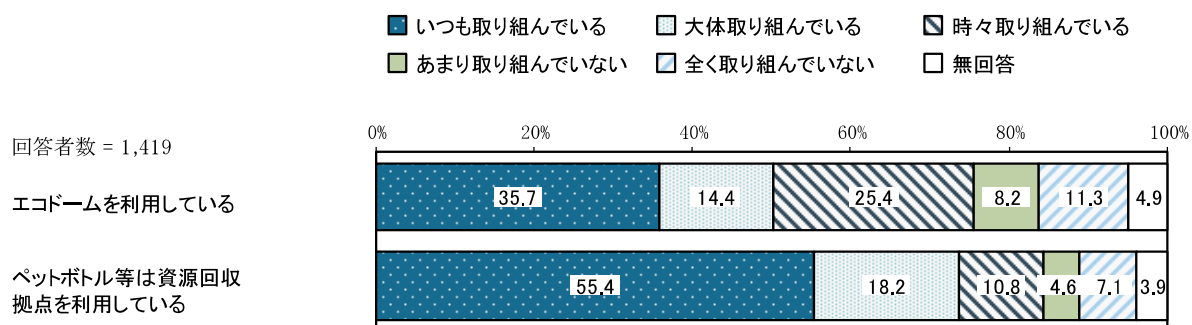


問4 本市はごみの減量やリサイクル推進のために以下の取り組みを行っています。あなたが利用している取り組みはありますか。(〇はいくつでも可)

「エコドーム（回収ステーション）」の割合が 80.1%と最も高く、次いで「資源回収拠点」の割合が 67.9%、「市民活動による資源回収への補助」の割合が 17.1%となっています。



【平成 28 年度調査】現在取り組んでいるごみ減量やリサイクルに対する取組



【年齢別】

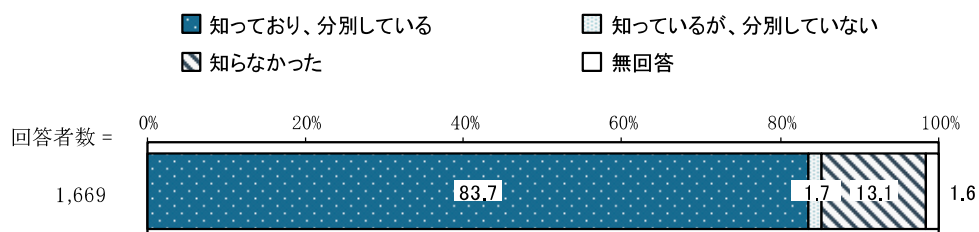
年齢別でみると、他に比べ、40 歳代で「エコドーム（回収ステーション）」の割合が、50 歳代で「エコドーム（回収ステーション）」「資源回収拠点」の割合が、60 歳代で「エコドーム（回収ステーション）」の割合が、70 歳代以上で「市民活動による資源回収への補助」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	エコドーム（回収ステーション）	資源回収拠点	電動生ごみ処理機購入への補助	生ごみ堆肥化容器購入への補助	市民活動による資源回収への補助	電動生ごみ処理機の無料貸出	無回答
10 歳代	3	66.7	100.0	—	—	—	—	—
20 歳代	80	61.3	53.8	1.3	—	5.0	—	11.3
30 歳代	218	79.4	67.4	1.8	0.5	11.0	—	4.6
40 歳代	332	83.4	68.1	2.7	1.5	19.3	0.3	3.6
50 歳代	283	83.4	72.1	1.8	1.8	18.4	—	2.8
60 歳代	252	83.3	67.5	2.0	1.2	17.1	0.4	1.2
70 歳代以上	486	78.6	68.3	2.5	6.4	20.0	0.4	4.7

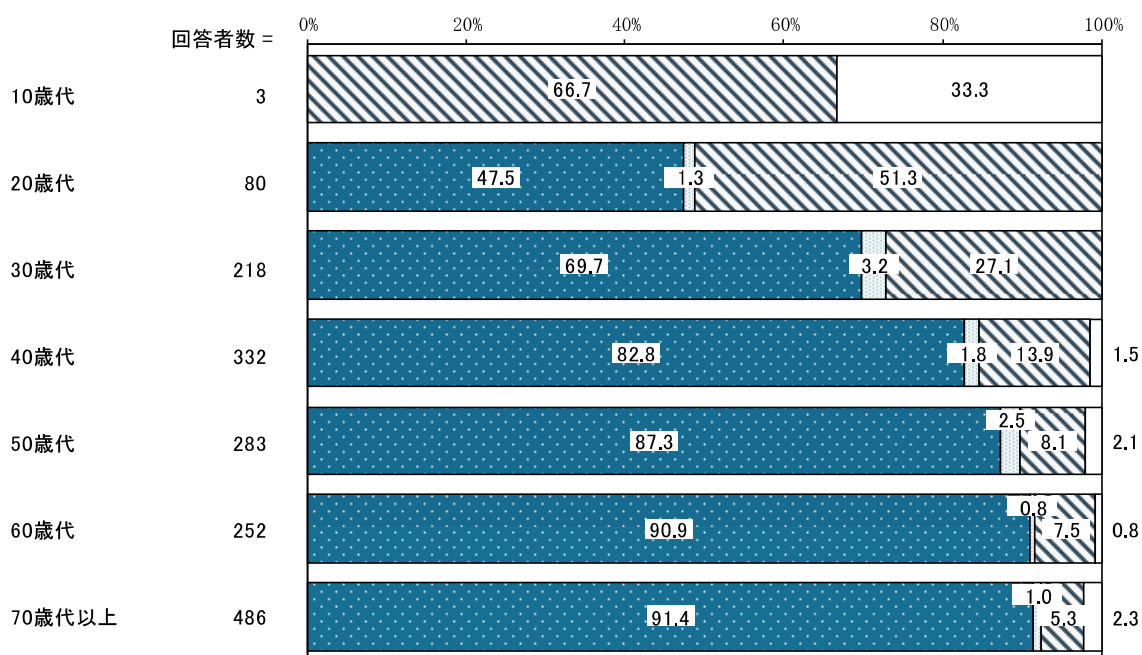
問5 本市は、平成30年4月から、「陶磁器・ガラス」「金属類」の分別と収集日を変更したことをご存知ですか。また、変更された方法に沿って分別していますか。
(〇は1つだけ)

「知っており、分別している」の割合が83.7%と最も高く、次いで「知らなかった」の割合が13.1%となっています。



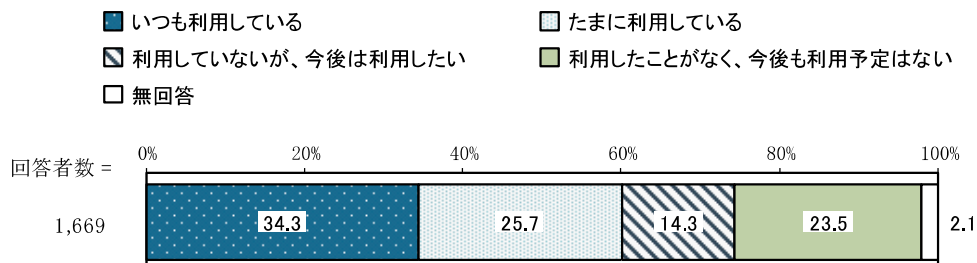
【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて「知っており、分別している」の割合が高くなる傾向がみられます。一方、年齢が低くなるほど「知らなかった」の割合が高くなる傾向がみられます。

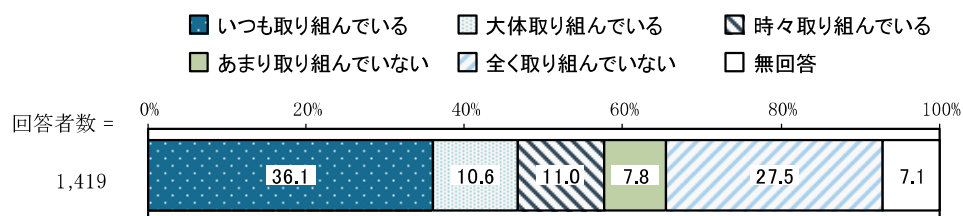


**問6 町内会や子供会等が実施している市民活動による資源回収の利用状況について
お答えください。(〇は1つだけ)**

「いつも利用している」の割合が34.3%と最も高く、次いで「たまに利用している」の割合が25.7%、「利用したことがなく、今後も利用予定はない」の割合が23.5%となっています。

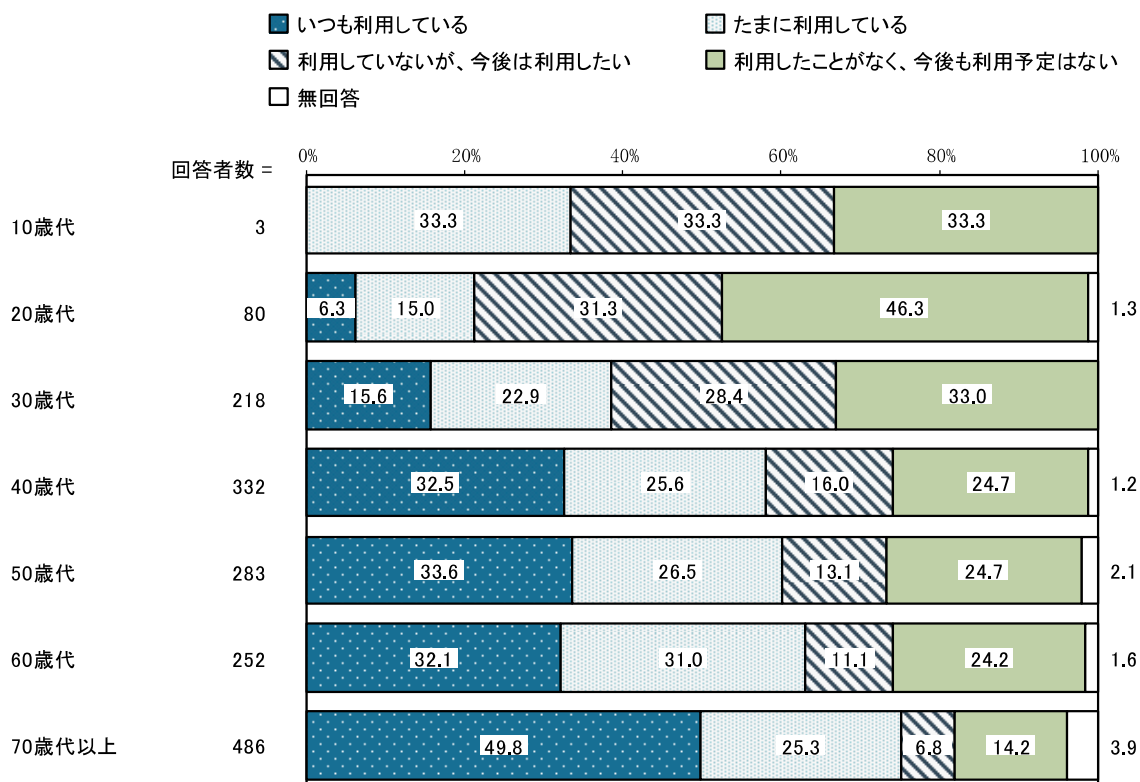


【平成28年度調査】現在取り組んでいるごみ減量やリサイクルに対する取組



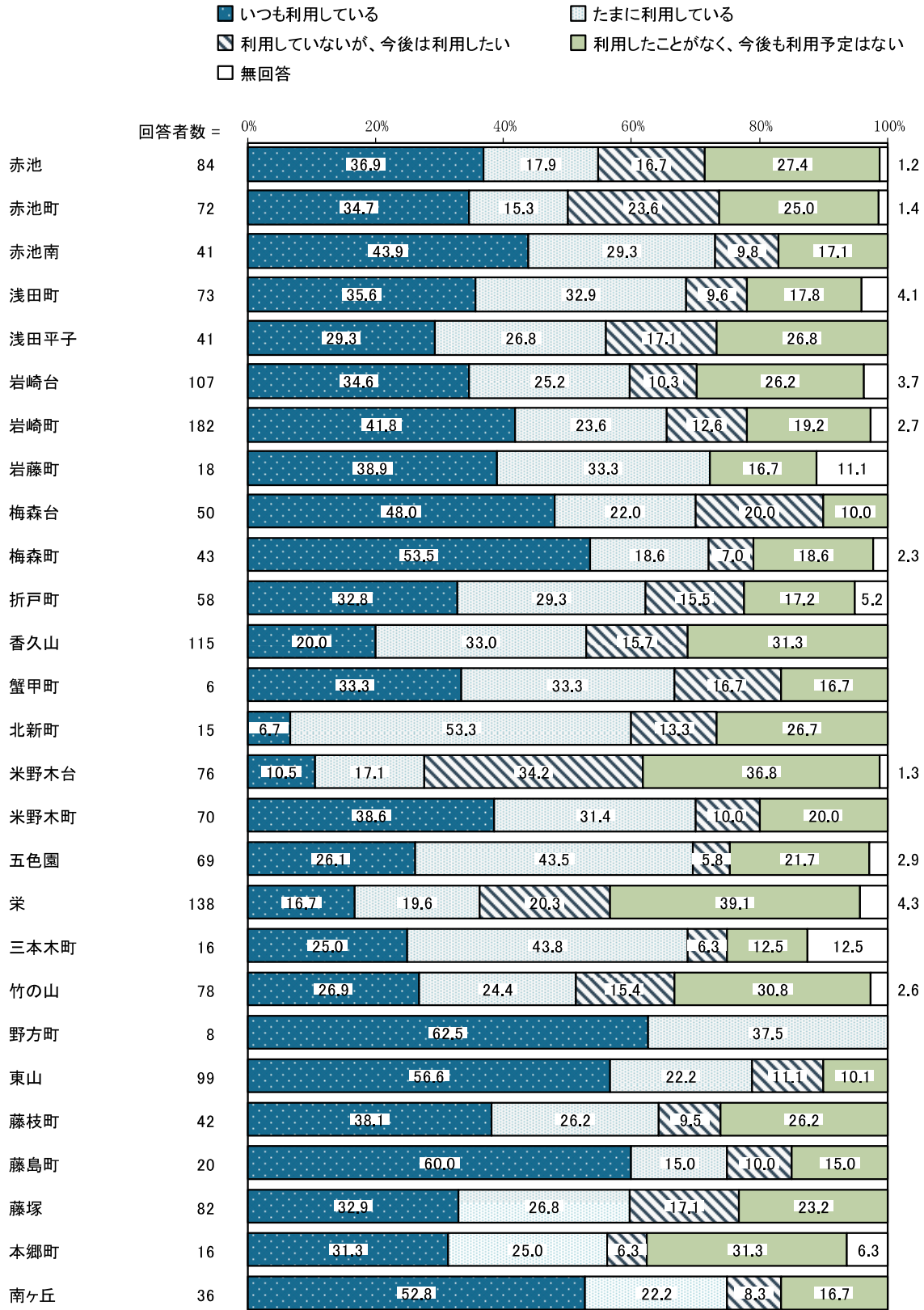
【年齢別】

年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて「いつも利用している」「たまに利用している」の割合が高くなる傾向がみられます。一方、年齢が低くなるほど「利用していないが、今後は利用したい」「利用したことがなく、今後も利用予定はない」の割合が高くなる傾向がみられます。



【地区別】

地区別でみると、他に比べ、野方町で「いつも利用している」の割合が、北新町で「たまに利用している」の割合が、米野木台で「利用していないが、今後は利用したい」の割合が、栄で「利用したことがなく、今後も利用予定はない」の割合が高くなっています。

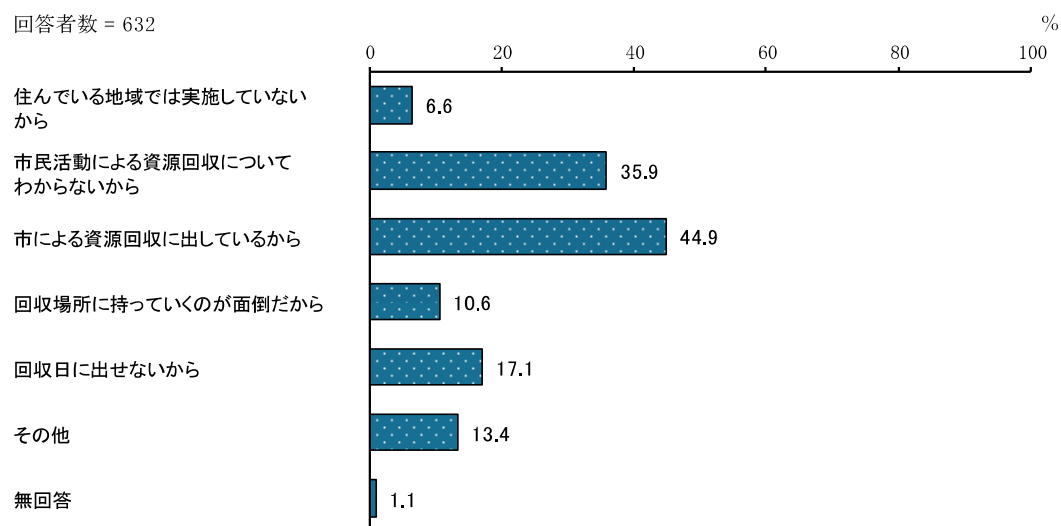


問6で市民活動による資源回収について「利用していないが、今後は利用したい」、「利用したことがなく、今後も利用予定はない」（利用していない）を選んだ方にお伺いします。

問7 あなたが市民活動による資源回収を利用しないのはなぜですか。
(〇はいくつでも可)

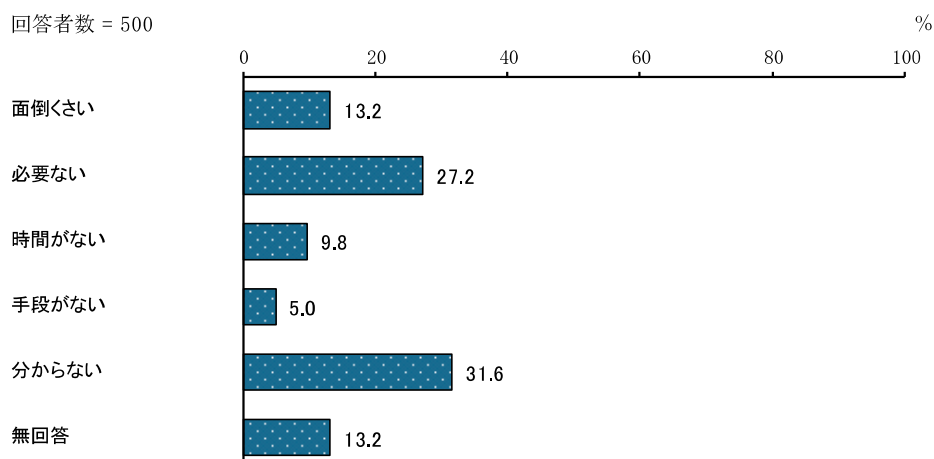
「市による資源回収に出しているから」の割合が44.9%と最も高く、次いで「市民活動による資源回収についてわからないから」の割合が35.9%、「回収日に出せないから」の割合が17.1%となっています。

回答者数 = 632



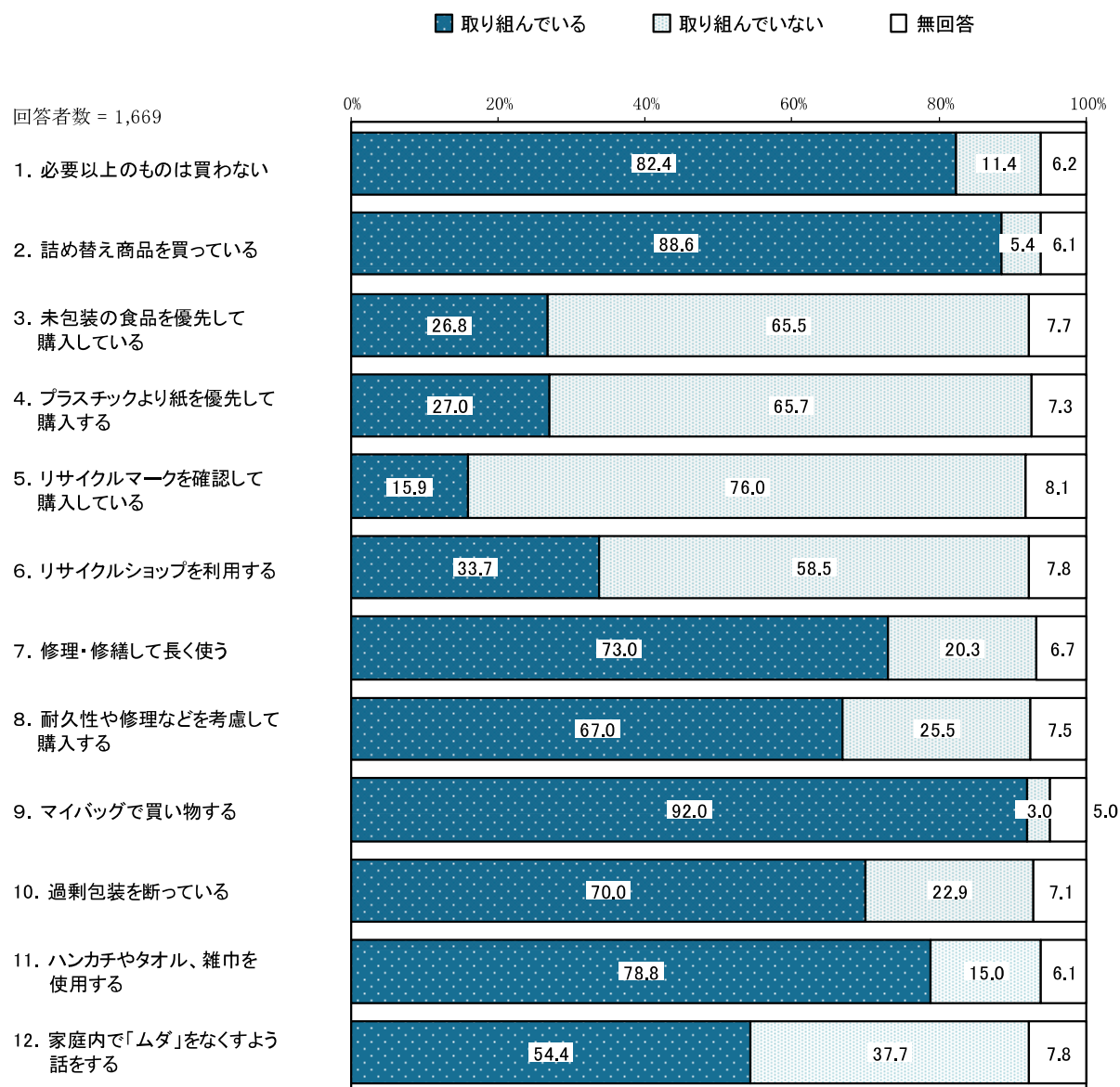
【平成28年度調査】現在取り組んでいるごみ減量やリサイクルに対する取組

回答者数 = 500

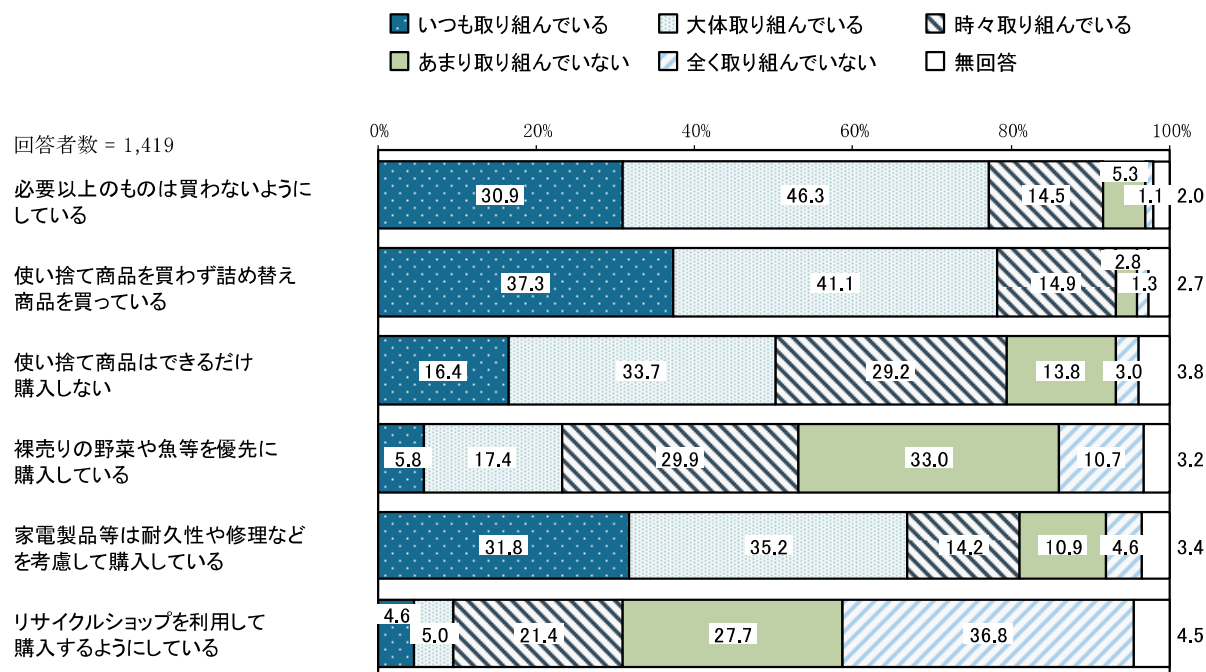


問8 普段の生活においてごみの分別や出さないようにするために取り組んでいることはありますか。(各項目の1か2のどちらかに○)

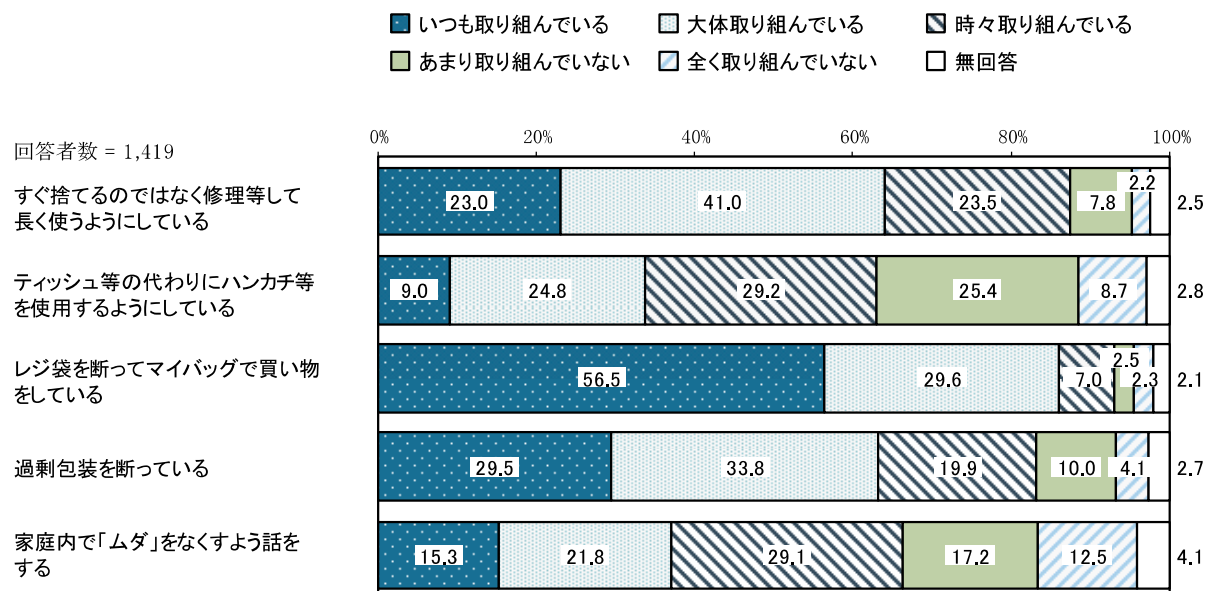
『2. 詰め替え商品を買っている』『9. マイバッグで買い物する』で「取り組んでいる」の割合が高く、約9割となっています。一方、『3. 未包装の食品を優先して購入している』『4. プラスチックより紙を優先して購入する』『5. リサイクルマークを確認して購入している』で「取り組んでいない」の割合が高く、特に『5. リサイクルマークを確認して購入している』で7割台半ばとなっています。



【平成 28 年度調査】買い物における取組について



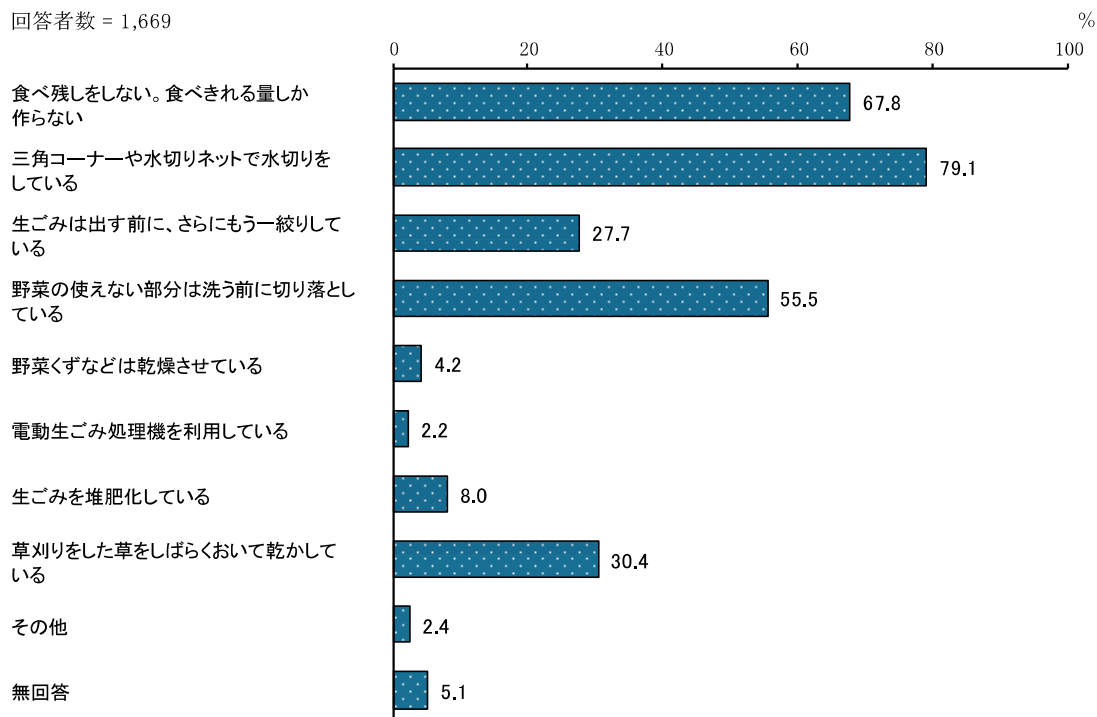
【平成 28 年度調査】普段の生活における取組について



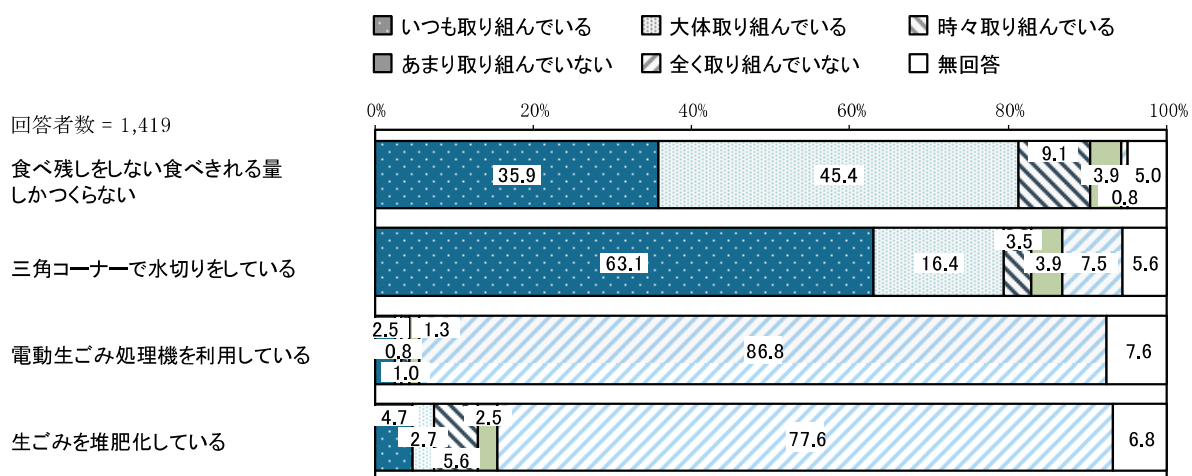
問9 燃えるごみ袋の中身の分類を調査した結果では、生ごみが約40%含まれていました。それに含まれる水分を減らすことは経費の削減に繋がります。あなたが、生ごみの減量のために行っていることや、水分が含まれないようにしている取り組みはありますか。(〇はいくつでも可)

「三角コーナーや水切りネットで水切りをしている」の割合が79.1%と最も高く、次いで「食べ残しをしない。食べきれぬ量しか作らない」の割合が67.8%、「野菜の使えない部分は洗う前に切り落としている」の割合が55.5%となっています。

回答者数 = 1,669



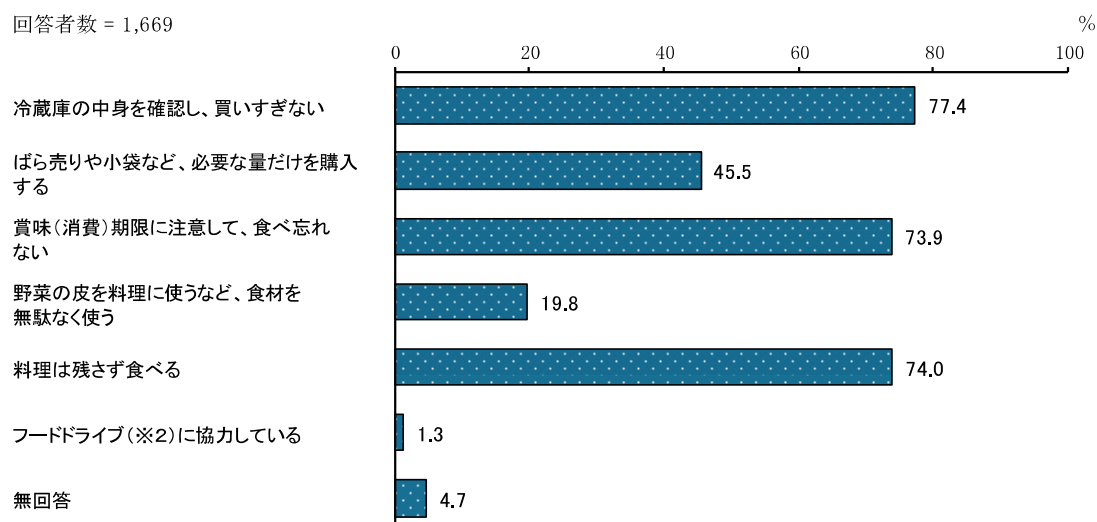
【平成28年度調査】生ごみ減量の取組みについて



問 10 食品ロス削減のために、あなたが心掛けていることはありますか。
(○はいいくつでも可)

「冷蔵庫の中身を確認し、買いすぎない」の割合が 77.4%と最も高く、次いで「料理は残さず食べる」の割合が 74.0%、「賞味（消費）期限に注意して、食べ忘れない」の割合が 73.9%となっています。

回答者数 = 1,669



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、40 歳代で「冷蔵庫の中身を確認し、買いすぎない」の割合が、70 歳代以上で「ばら売りや小袋など、必要な量だけを購入する」の割合が、50 歳代で「賞味（消費）期限に注意して、食べ忘れない」「野菜の皮を料理に使うなど、食材を無駄なく使う」の割合が、30 歳代で「料理は残さず食べる」の割合が高くなっています。

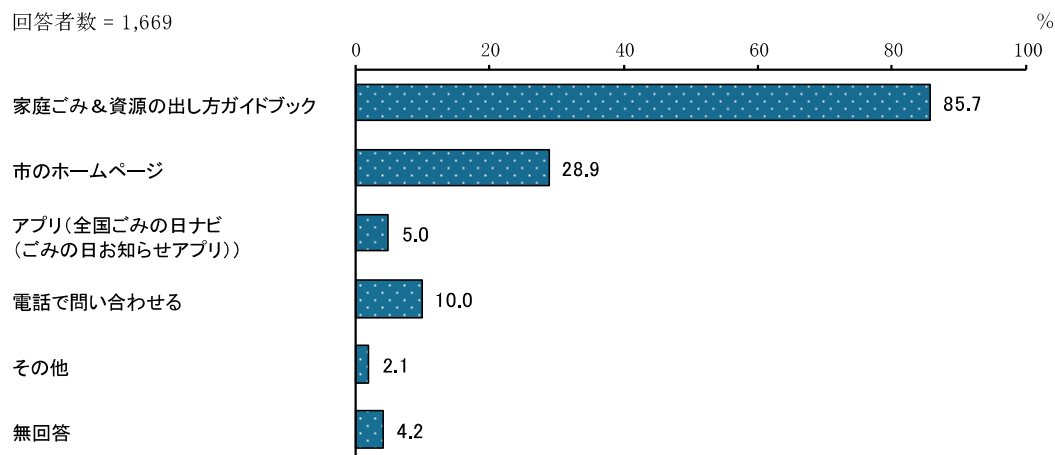
単位：％

区分	有効回答数（件）	冷蔵庫の中身を確認し、買いすぎない	ばら売りや小袋など、必要な量だけを購入する	賞味（消費）期限に注意して、食べ忘れない	野菜の皮を料理に使うなど、食材を無駄なく使う	料理は残さず食べる	フードドライブ(※2)に協力している	無回答
10 歳代	3	66.7	66.7	100.0	66.7	100.0	—	—
20 歳代	80	77.5	36.3	67.5	13.8	73.8	1.3	2.5
30 歳代	218	75.7	42.2	77.5	16.1	81.2	—	3.7
40 歳代	332	80.4	43.4	73.8	19.6	78.0	1.5	3.6
50 歳代	283	75.3	42.4	77.0	23.0	77.4	2.1	3.9
60 歳代	252	79.0	46.8	73.4	18.7	73.0	1.6	4.0
70 歳代以上	486	77.0	51.6	72.4	21.0	67.5	1.2	6.6

問 11 ごみを出す際、分別方法がわからない場合には、どのように調べていますか。
(○はいくつでも可)

「家庭ごみ&資源の出し方ガイドブック」の割合が 85.7%と最も高く、次いで「市のホームページ」の割合が 28.9%、「電話で問い合わせる」の割合が 10.0%となっています。

回答者数 = 1,669



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、60 歳代で「家庭ごみ&資源の出し方ガイドブック」の割合が、20 歳代で「市のホームページ」の割合が、70 歳代以上で「電話で問い合わせる」の割合が高くなっています。

単位：%

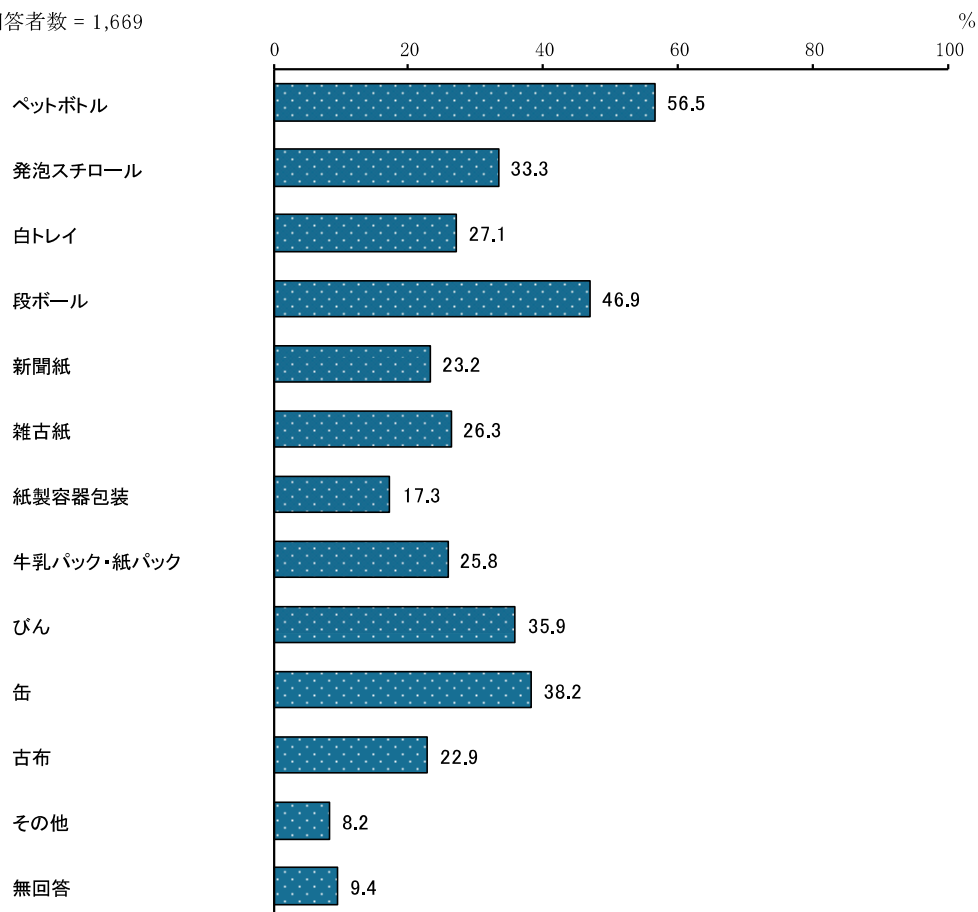
区分	有効回答数(件)	家庭ごみ&資源の出し方ガイドブック	市のホームページ	アプリ(全国ごみの日ナビ(ごみの日お知らせアプリ))	電話で問い合わせる	その他	無回答
10 歳代	3	100.0	—	33.3	—	33.3	—
20 歳代	80	70.0	55.0	8.8	3.8	1.3	2.5
30 歳代	218	74.8	52.3	9.6	1.8	2.3	3.2
40 歳代	332	88.9	37.0	6.3	7.8	1.5	2.1
50 歳代	283	86.9	31.4	7.8	8.1	1.4	3.9
60 歳代	252	91.3	20.6	2.4	11.1	1.6	2.8
70 歳代以上	486	87.9	11.5	1.2	16.9	3.1	6.8

3 市のリサイクル事業について

問 12 お近くの、市が回収する常設の資源回収拠点で回収して欲しい品目についてお聞きします。(〇はいくつでも可)

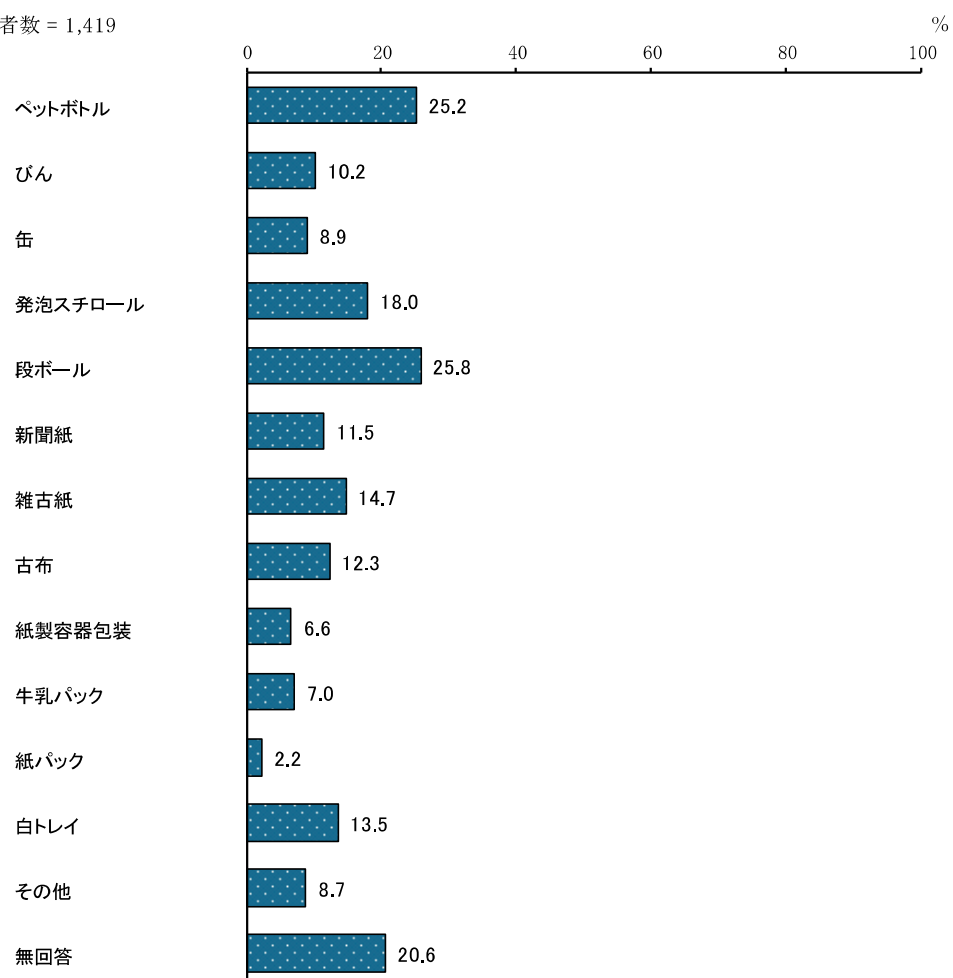
「ペットボトル」の割合が 56.5%と最も高く、次いで「段ボール」の割合が 46.9%、「缶」の割合が 38.2%となっています。

回答者数 = 1,669



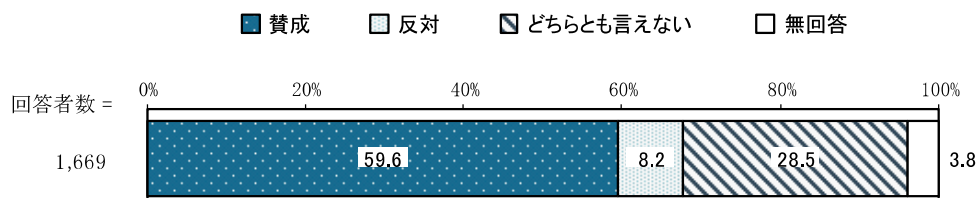
【平成 28 年度調査】近くの資源回収拠点で新たに回収してほしい品目

回答者数 = 1,419

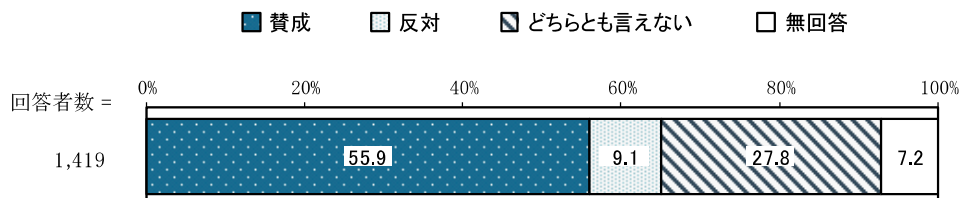


問 13 令和元年度のごみの組成調査によると、家庭ごみの内、約 1 割がリサイクル可能な紙類となっています。「紙製容器包装（紙袋、包装紙、紙製容器包装マークがついているもの）」を「びん・缶」と同じようにごみ集積所において定期的に回収することについてどう思われますか。（○は 1 つだけ）

「賛成」の割合が 59.6%と最も高く、次いで「どちらとも言えない」の割合が 28.5%となっています。



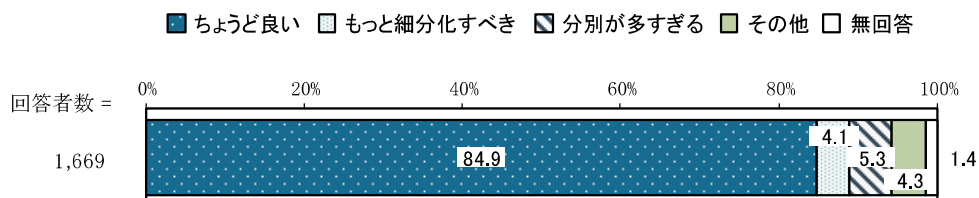
【平成 28 年度調査】紙製容器包装の定期的回収について



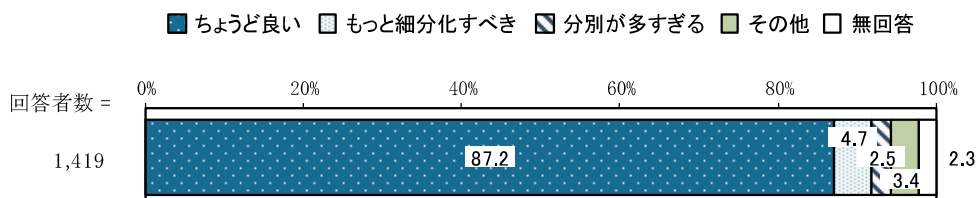
4 市のごみ収集の方法について

問 14 日進市のごみ集積所では①燃えるごみ、②金属類、③プラスチック製容器包装、④びん・缶・陶磁器・ガラスに分別して家庭ごみを出すルールとなっていますが、この分別についてどう思われますか。(〇は1つだけ)

「ちょうど良い」の割合が84.9%と最も高くなっています。

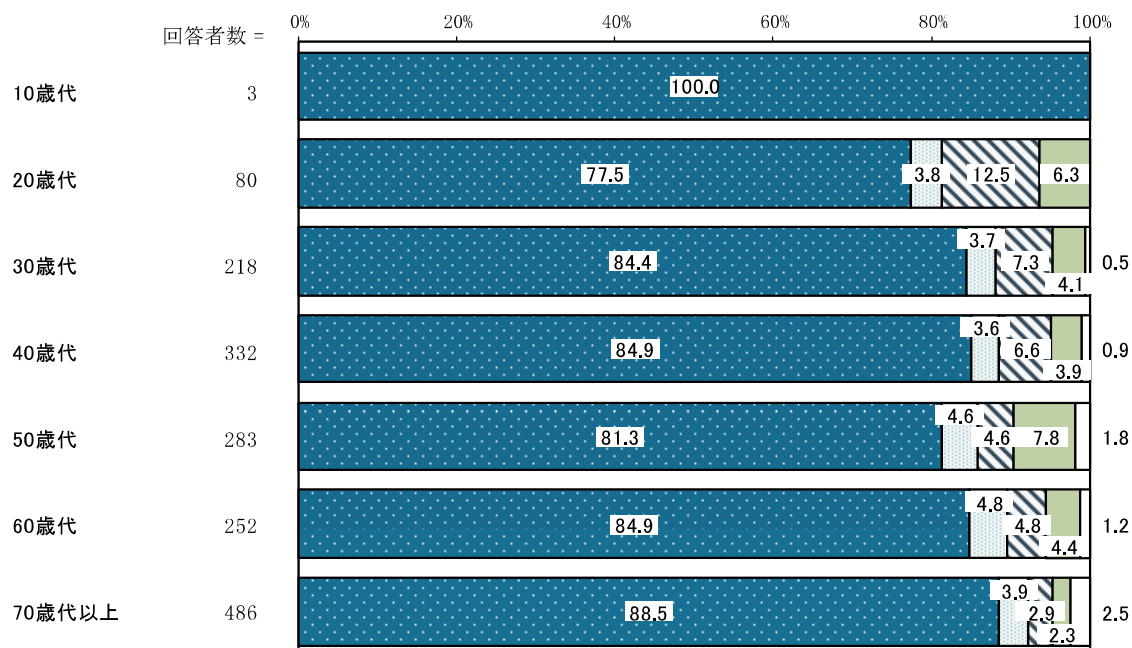


【平成 28 年度調査】紙製容器包装の定期的回収について



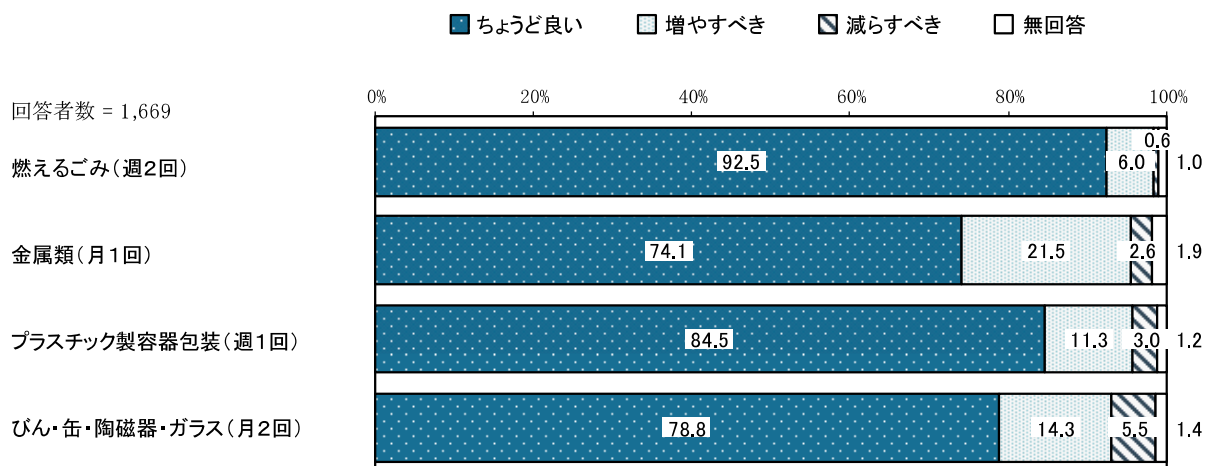
【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、70 歳代以上で「ちょうど良い」の割合が高くなっています。また、20 歳代で「分別が多すぎる」の割合が高くなっています。

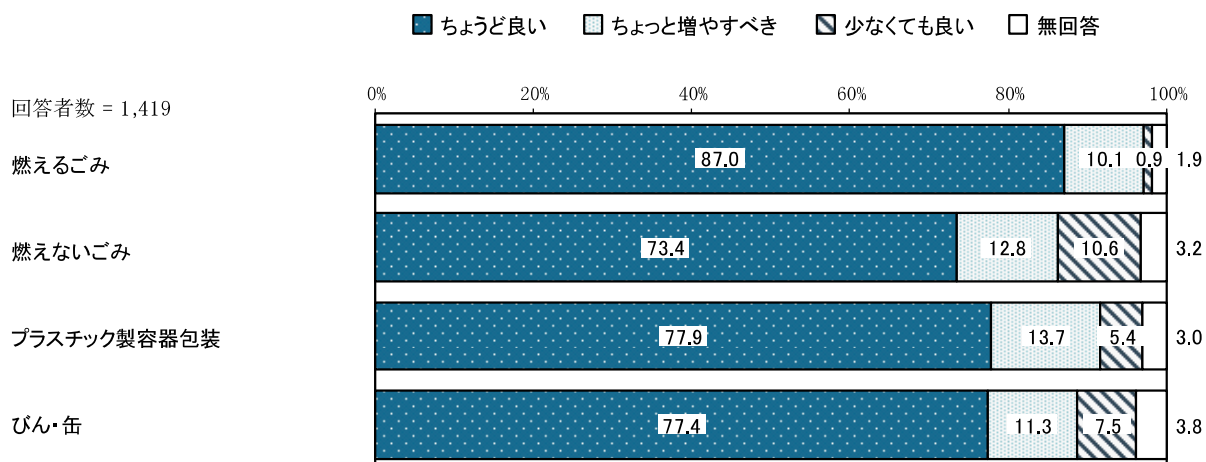


問 15 市のごみ収集の回数についてどう思われますか。それぞれお答えください。
(各項目○は1つだけ) ○燃えるごみ(週2回)

『燃えるごみ(週2回)』で「ちょうど良い」の割合が高く、約9割となっています。
また、『金属類(月1回)』で「増やすべき」の割合が高く、約2割となっています。



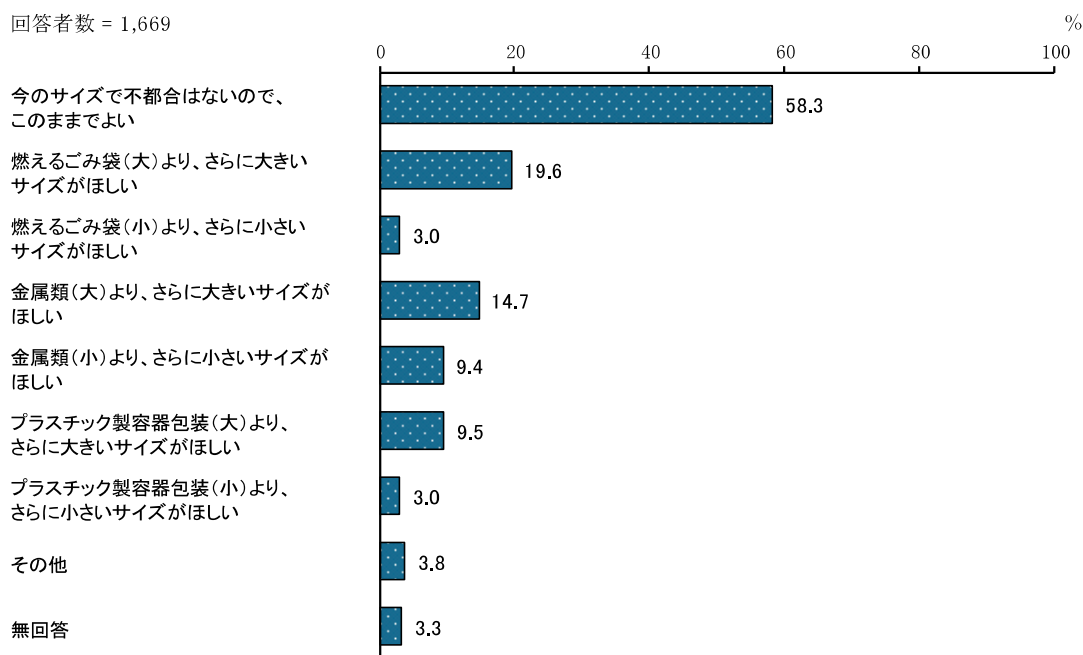
【平成 28 年度調査】紙製容器包装の定期的回収について



問 16 本市では、「燃えるごみ袋」「資源袋（金属類用）」「プラスチック製容器包装等袋」とそれぞれサイズが指定されています。新たに必要のごみ袋のサイズがあれば、お答えください。（〇はいくつでも可）

「今のサイズで不都合はないので、このままでよい」の割合が 58.3%と最も高く、次いで「燃えるごみ袋（大）より、さらに大きいサイズがほしい」の割合が 19.6%、「金属類（大）より、さらに大きいサイズがほしい」の割合が 14.7%となっています。

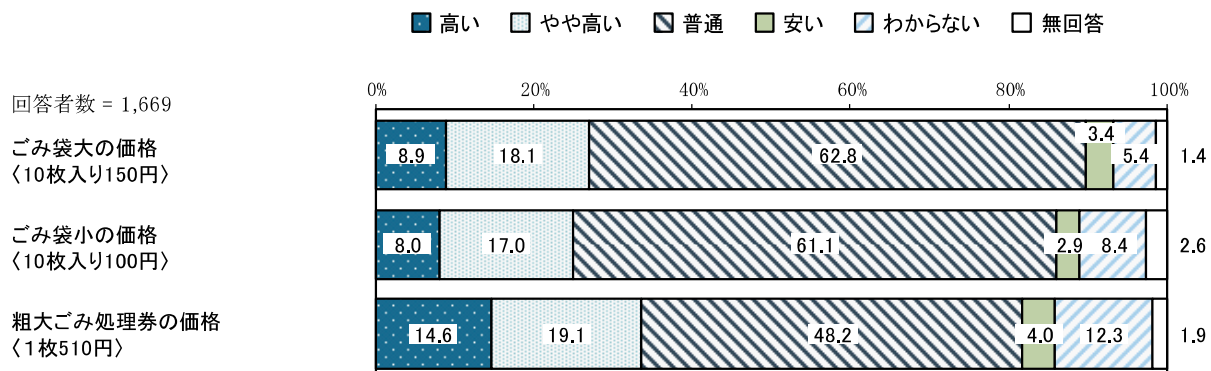
回答者数 = 1,669



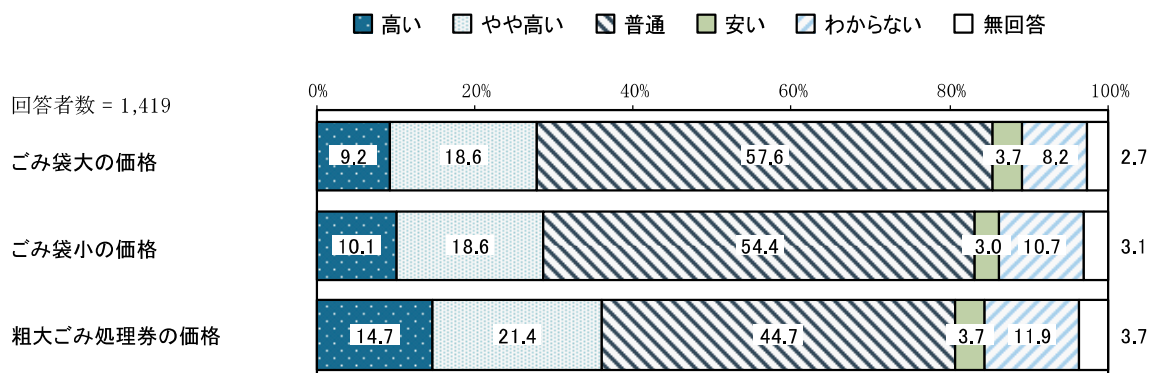
問 17 本市では、ごみ袋や粗大ごみ処理券の売上（令和元年度：約 9、600 万円）を廃棄物処理事業の財源としています。ごみ袋や粗大ごみ処理券の価格についてどう思われますか。それぞれお答えください。（各項目○は1つだけ）

『ごみ袋大の価格（10 枚入り 150 円）』『ごみ袋小の価格（10 枚入り 100 円）』で「普通」の割合が高く、約 6 割となっています。

また、『粗大ごみ処理券の価格（1 枚 510 円）』で「高い」と「やや高い」をあわせた“高い”の割合が高く、約 3 割となっています。

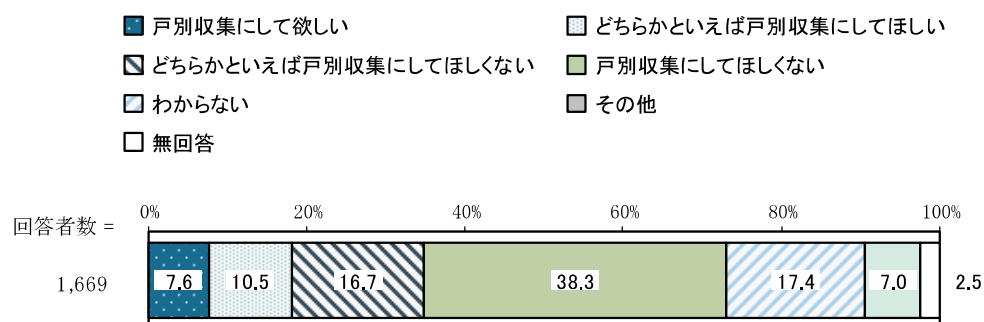


【平成 28 年度調査】ごみ袋や粗大ごみ処理券の価格について

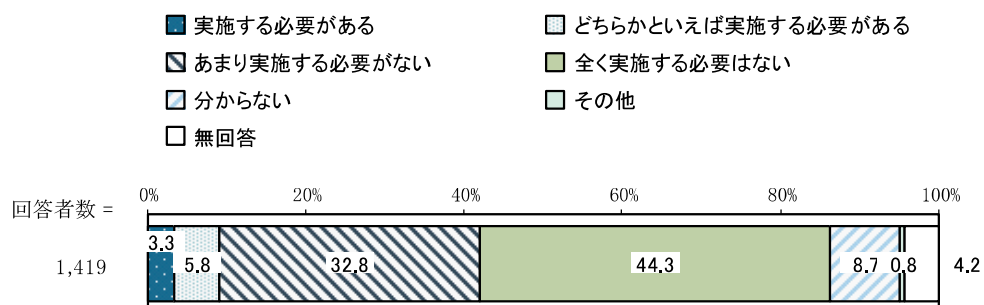


問 18 ごみ集積所からの収集運搬には、年間約 3 億円を要しています。
戸別収集にした場合、設備の確保や人件費の増加等により費用が 2 倍以上になり、ごみ袋の価格に影響が出ることが予想されますが、出しやすくなったり、より適切に分別されリサイクルが促進することも期待できます。これを踏まえて、戸別収集が必要と考えますか。(○は 1 つだけ)

「戸別収集にして欲しい」と「どちらかといえば戸別収集にしてほしい」をあわせた“戸別収集にして欲しい”の割合が 18.1%、「どちらかといえば戸別収集にしてほしくない」と「戸別収集にしてほしくない」をあわせた“戸別収集にしてほしくない”の割合が 55.0%となっています。

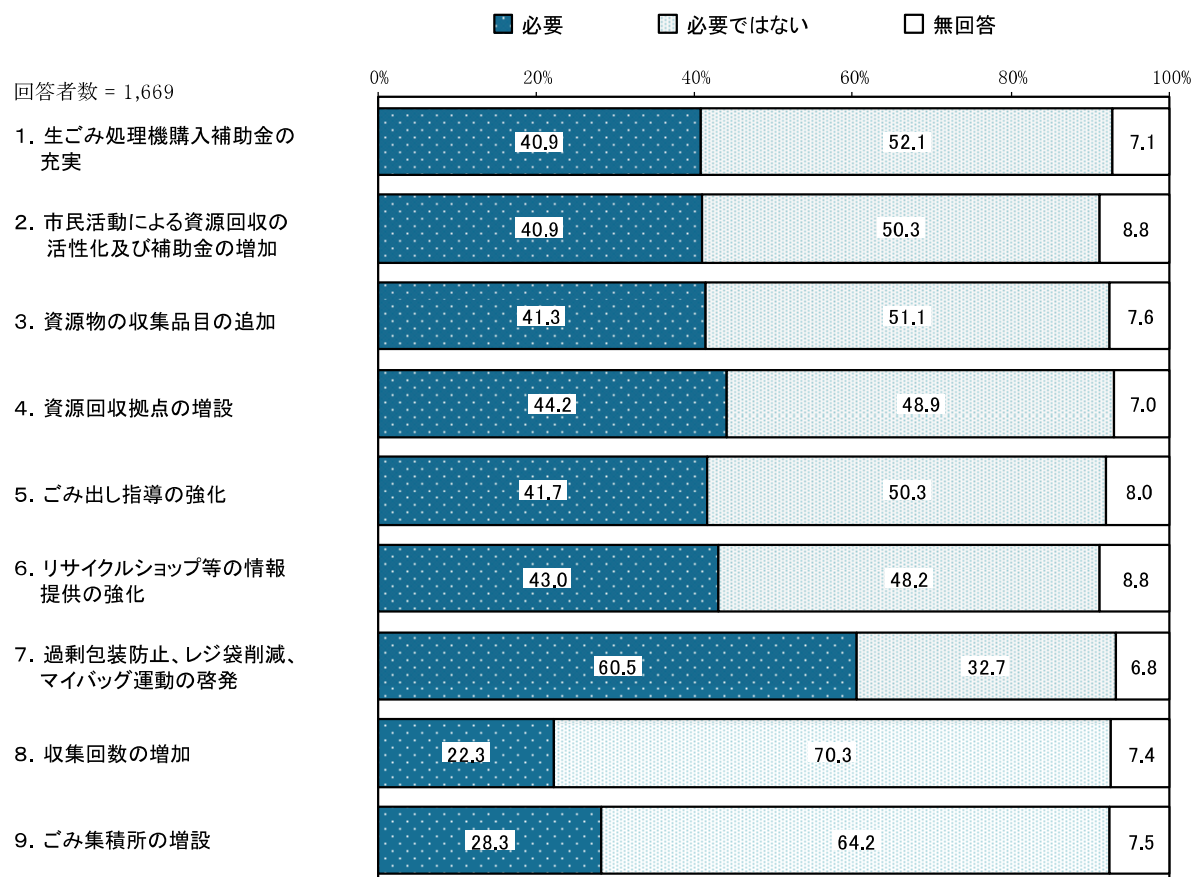


【平成 28 年度調査】費用増を伴うが戸別収集は必要か



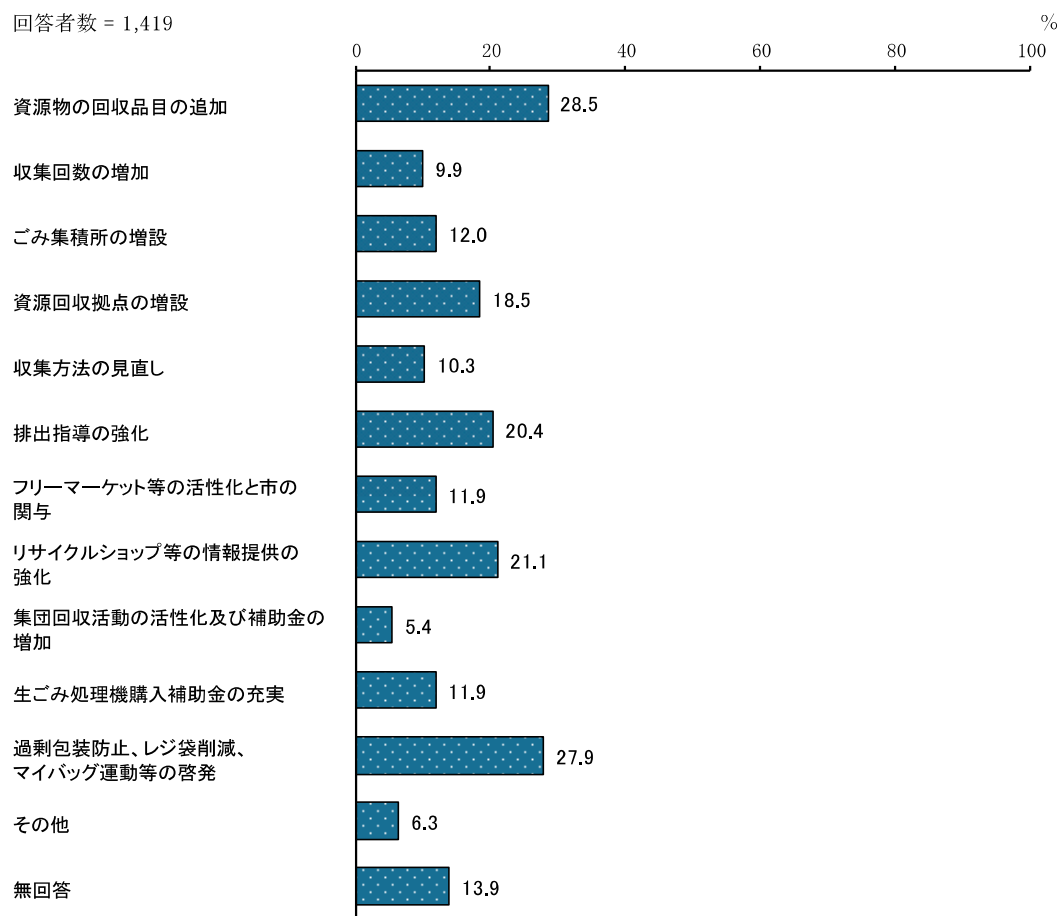
問 19 今後、経費がかかったとしても、市が以下の取り組みを行っていく必要があると思いますか。（各項目の 1 か 2 のどちらかに○）

『7. 過剰包装防止、レジ袋削減、マイバッグ運動の啓発』で「必要」の割合が高く、約 6 割となっています。また、『8. 収集回数の増加』で「必要ではない」の割合が高く、約 7 割となっています。



【平成 28 年度調査】今後必要な取組

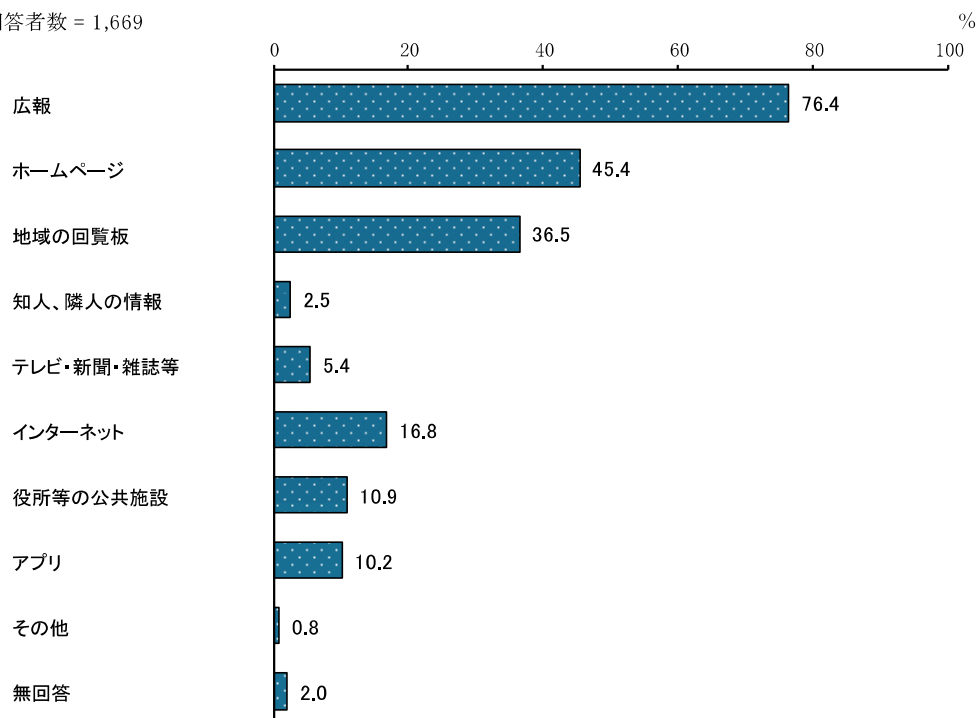
回答者数 = 1,419



問 20 市のごみ処理事業について、どのような方法で情報を知りたいですか。
(○はいくつでも可)

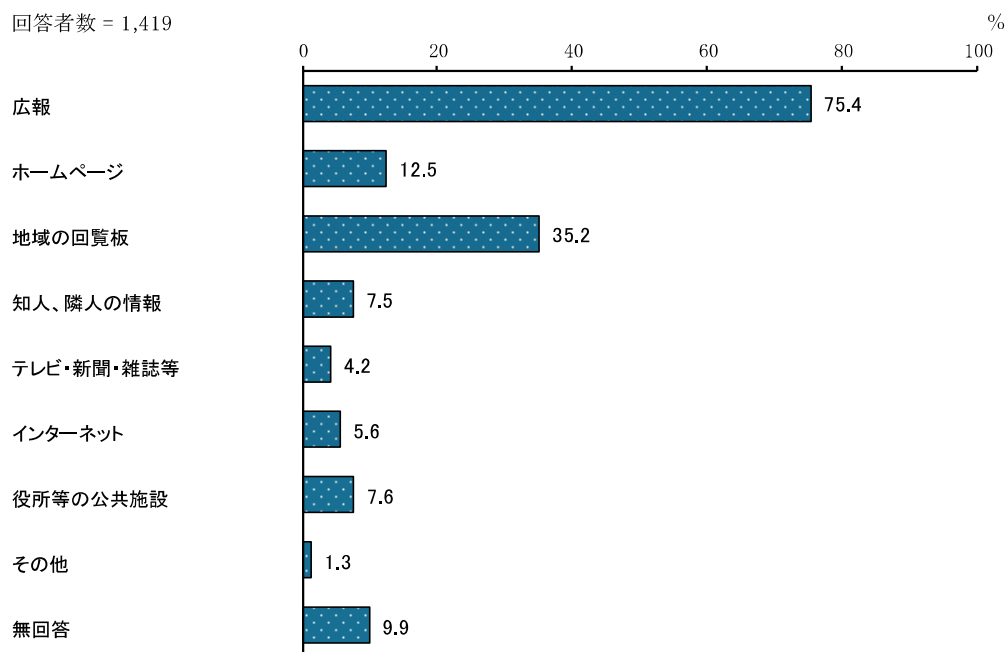
「広報」の割合が76.4%と最も高く、次いで「ホームページ」の割合が45.4%、「地域の回覧板」の割合が36.5%となっています。

回答者数 = 1,669



【平成 28 年度調査】役に立っている情報源

回答者数 = 1,419



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、70 歳代以上で「広報」「地域の回覧板」「役所等の公共施設」の割合が、30 歳代で「ホームページ」の割合が、20 歳代で「テレビ・新聞・雑誌等」「インターネット」「アプリ」の割合が高くなっています。

単位：％

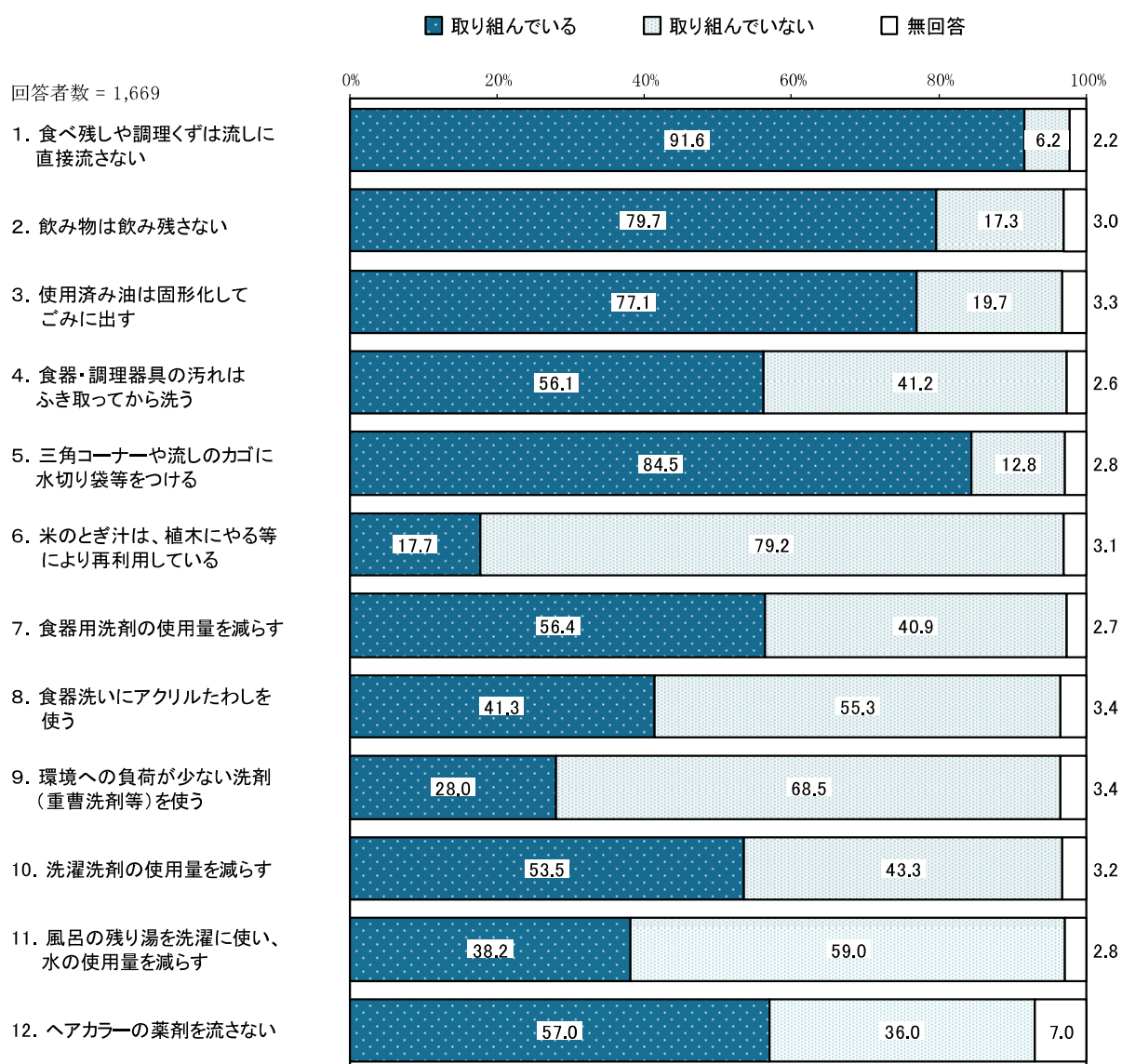
区分	有効回答数 (件)	広報	ホームページ	地域の回覧板	知人、隣人の情報	等 テレビ・新聞・雑誌	インターネット	役所等の公共施設	アプリ	その他	無回答
10 歳代	3	66.7	66.7	—	—	33.3	33.3	33.3	33.3	—	—
20 歳代	80	43.8	58.8	15.0	6.3	11.3	36.3	7.5	21.3	—	1.3
30 歳代	218	66.1	62.4	23.9	2.3	4.6	28.9	11.0	18.3	0.9	1.8
40 歳代	332	71.7	59.3	29.8	1.8	5.1	22.6	6.0	14.5	1.2	0.6
50 歳代	283	74.6	56.2	30.4	1.1	4.9	19.1	11.0	12.4	1.1	—
60 歳代	252	83.7	45.6	35.3	0.8	4.8	11.9	10.3	7.9	1.2	1.2
70 歳代以上	486	86.6	19.5	54.7	4.3	5.3	5.3	15.0	1.9	0.4	4.5

5 生活排水への取り組みについて

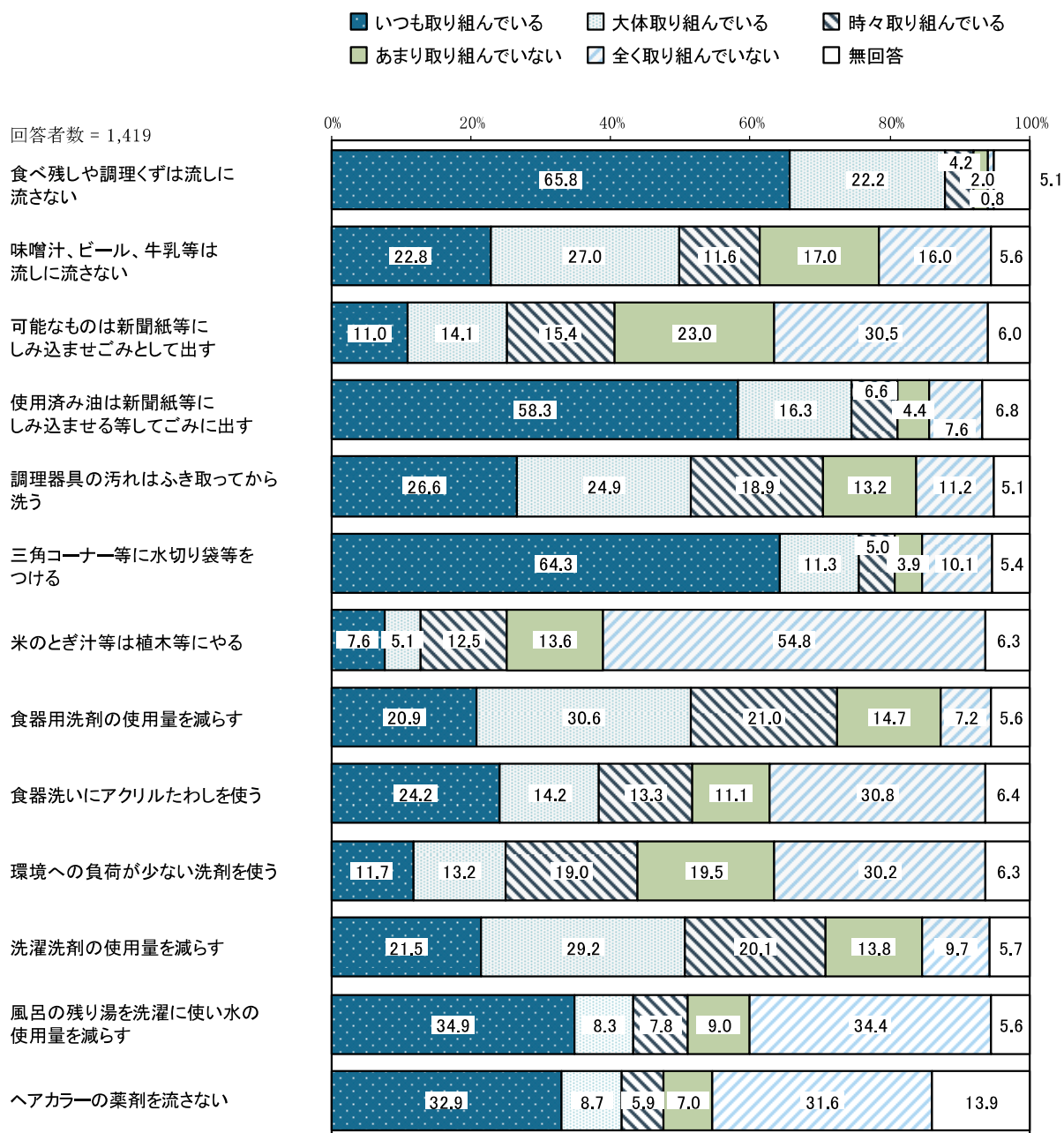
問 21 あなたが、普段の生活の中で取り組んでいる排水対策の取り組みはありますか。
(各項目の 1 か 2 のどちらかに○)

『1. 食べ残しや調理くずは流しに直接流さない』『5. 三角コーナーや流しのカゴに水切り袋等をつける』で「取り組んでいる」の割合が高く、特に『1. 食べ残しや調理くずは流しに直接流さない』で約 9 割となっています。

一方、『6. 米のとぎ汁は、植木にやる等により再利用している』『8. 食器洗いにアクリルたわしを使う』『9. 環境への負荷が少ない洗剤（重曹洗剤等）を使う』『11. 風呂の残り湯を洗濯に使い、水の使用量を減らす』で「取り組んでいない」の割合が高く、特に『6. 米のとぎ汁は、植木にやる等により再利用している』で約 8 割となっています。



【平成 28 年度調査】今後必要な取組



当日資料④

地区別回答割合

	送付数 (A)	回答数 (B)	回答割合 (B)/(A)×100 (%)	(アンケート結果) 問1-⑥ あなたがお住まいの地区は、どれにあてはまりますか。 (B)/1,669通×100 (%)
赤池	149	84	56.4	5.0
赤池町	144	72	50.0	4.3
赤池南	70	41	58.6	2.5
浅田町	153	73	47.7	4.4
浅田平子	98	41	41.8	2.5
岩崎台	196	107	54.6	6.4
岩崎町	299	182	60.9	10.9
岩藤町	33	18	54.5	1.1
梅森台	91	50	54.9	3.0
梅森町	82	43	52.4	2.6
折戸町	90	58	64.4	3.5
香久山	211	115	54.5	6.9
蟹甲町	10	6	60.0	0.4
北新町	38	15	39.5	0.9
米野木台	156	76	48.7	4.6
米野木町	125	70	56.0	4.2
五色園	125	69	55.2	4.1
栄	248	138	55.6	8.3
三本木町	48	16	33.3	1.0
竹の山	147	78	53.1	4.7
野方町	8	8	100.0	0.5
東山	132	99	75.0	5.9
藤枝町	65	42	64.6	2.5
藤島町	38	20	52.6	1.2
藤塚	169	82	48.5	4.9
本郷町	22	16	72.7	1.0
南ヶ丘	53	36	67.9	2.2
無回答		14		0.8
合計	3,000	1,669	55.6	100.0

日進市 単身世帯・複数世帯 比率

世帯人数	世帯数	割合（％）
1人	11,758	30.6
2人	10,400	27.1
3人	7,339	19.1
4人	6,885	17.9
5人	1,678	4.4
6人以上	363	0.9
合計	38,423	100.0

（R3年5月7日現在）

実績値（H28年度～R1年度）

当日資料⑥

生活排水処理率					
	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	H28年度とR1年度の比較
計画処理区域内人口	88,808	89,707	90,418	91,440	2,632
水洗化人口	88,126	89,012	89,735	90,681	2,555
下水道人口	62,386	67,357	69,331	70,891	8,505
コミュニティプラント人口	0	0	0	0	0
浄化槽人口	25,740	21,655	20,404	19,790	▲ 5,950
合併処理浄化槽人口	14,581	13,349	13,009	12,595	▲ 1,986
単独処理浄化槽人口	11,159	8,306	7,395	7,195	▲ 3,964
非水洗化人口	682	695	683	759	77
生活排水処理率	86.7	90.0	91.1	91.3	4.6

計画処理区域内人口＝水洗化人口＋非水洗化人口
生活排水処理率（％）＝（下水道人口＋コミュニティプラント人口＋合併処理浄化槽人口）÷（非水洗化人口＋水洗化人口）×100